



# 天満宮

題字／後西天皇御宸筆

## 特集

- ◆ 令和九年半萬燈祭に向け、国内最大級の木製大駒札お目見え  
— 千玄室大宗匠ら除幕し、諸祭事本格始動の象徴となる —
- ◆ 勅祭に由来する「令和の北野祭」再興へ
- ◆ 天神さまと私 — 上七軒お茶屋「中里」女将 中村 泰子さん



御神忌 千百二十五年  
**半萬燈祭**  
 未来へつなぐ誠の心

令和9年 2027



令和九年  
 菅公御神忌千百二十五年  
**半萬燈祭**  
 大祭 三月二十五日  
 北野祭例祭 九月四日  
 北野天満宮

日本文化の中心地 京都

その文化の礎を築いた天神信仰発祥の社

## 北野天満宮の由緒

当宮は御祭神に菅原道真公（菅公）をお祀りした全国天満宮・天神社一万二千社の宗祀（総本社）の神社です。

天神信仰発祥の社として今から千年余り前の村上天皇天曆元年（九四七）六月九日、御神託により平安京の天門にあたる北野に御鎮座致しました。天徳三年（九五九）右大臣藤原師輔卿が御社殿を造営、一條天皇により北野祭は官祭に与り、「北野天満大自在天神」の神号を賜り、さらに皇室・朝廷の崇敬を受け臣下として初めて二十二社に加えられ、官幣中社に列格、皇城鎮護の神として崇められるとともに、天満宮・天神社の総本社として崇敬されてきました。

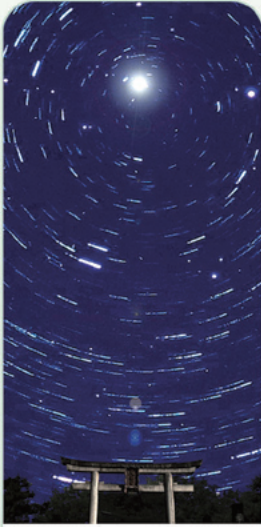
創建以来、皇室との御縁深く、寛弘元年（一〇〇四）には一條天皇がはじめて北野社に行幸されました。以来歴代天皇の行幸も二十数度に亘り、さらに將軍家や有力大名の崇敬を受けました。菅公薨去延喜三年（九〇三）より凡そ百年の歳月をかけて誕生した北野の天神信仰は、平安京の天門にあつて、朝野を問わず人々の暮らしの最も重要な指針となり今日まで育まれてきたのです。

「文道大祖 風月本主」と崇められた菅公は、和魂漢才の精神で誠の心を以って学問に勤しまれたことから、学問をはじめ芸能・農耕・厄除け・至誠・冤罪を晴らす神として奉祀されるとともに、人々の心の支えとなる神として、各時代の社会構造と相まって篤い崇敬をうけ、庶民に至るまで「天神様」として親しまれてきました。菅公は、学者・政治家また詩人・教育者として多方面に活躍され、生涯一貫された「誠の心」は、日本人の感性として現在にも生き続けています。

千有余年に亘る歴史の中で受け継がれてきた天神信仰の根本を示すのが、当宮所蔵の国宝「北野天神縁起絵巻」承久本です。数ある縁起絵巻の中で唯一無二の神社絵巻物であり、その信仰性や描かれる世界観、美術的価値は世界が認めるところであります。

また現在の御社殿は、豊臣秀吉公の遺命により豊臣秀頼公が片桐且元を奉行として、慶長十二年（一六〇七）に造営された一大建築群です。御本殿は八棟造と称され、国宝の指定を受ける桃山文化の代表的建築です。その絢爛豪華さは謂うまでもありませんが、特に多数の桃山建築の中でその創建当時の規模そのままに保存されているのは当宮が唯一のもので、後世の権現造の原型となるなど、神社建築史に多大な影響を与えています。

菅公の御神霊を祀る北野天満宮は、御墓所・太宰府天満宮と共に全国天満宮の宗祀と称され、日本文化の礎、学問の神様として今日も多くの参詣者が訪れています。



### 【シンボルマーク】

平安京の天門に位置する北極星を星梅鉢と鳥居（北野）で捉えたマーク。北野は千二百年に亘り、国都として文化を育んだ平安京にて、天の神々の出入口「天門」に菅原大神が奉祀された聖地です。爾来、北野の地より全国に天神様の御神威が益々昂揚していきました。

### 表紙写真 — 国内最大級の木製大駒札掲出 —

令和九年に迎える菅公御神忌千二百五十年半萬燈祭を広く発信すべく、国内最大級の木製大駒札を製作し一の鳥居前に掲出した。半萬燈祭終了までの約四年間掲出予定で、本格的な記念事業開始を崇敬者や世間一般に知らせる象徴となった。



# 御挨拶

## 御手洗祭から例祭・御霊会・瑞饋祭と続く「北野祭」の再興



国都平安京の七夕信仰「北野七夕梶の葉流し」 都名所図会  
提燈には北野の御神紋である梅鉢と三階松、菅公ゆかりの紅葉、中央の七夕笹には北野御手洗祭ゆかりの「梶の葉」を象徴的に掲げ、「二星」は牽牛織姫を表す。(仔細は九頁参照)

先ず以て謹んで聖寿の万歳と皇室の弥栄、氏子崇敬者の皆様方のご健勝とご多幸をご祈念申し上げます。

去る七月三日、崇敬会北野天満宮講社会裏千家千玄室大宗匠ご参列のもと、令和九年菅公御神忌千二百二十五年半萬燈祭駒札除幕式並びに清祓を厳肅裏に齋行し、半萬燈祭の先触れを公に示す木製大駒札が一の鳥居前と東門前に賑々しくお披露目と相成りました。梅雨の晴れ間とはいえ、暑さ厳しき中をご参列頂きました皆様に対し、改めて厚く御礼申し上げます。半萬燈祭に向けた諸準備は現在着々と進んでおり、旧儀の再興と文化的な側面のアプローチ（本文四頁から九頁参照）と境内整備事業（十頁参照）の三本の柱を軸に来る令和九年に向けて更に邁進していく所存でございます。

扱、北野祭の中心的神事のひとつである当宮の「例祭」が本年も近づいて参りました。古来、朝廷や為政者の篤い信仰により興隆を見せた「北野祭」は、歴史の移り変わりと共に分断され、その形を変えながら現代に継承されております。現在当宮では、半萬燈祭の機運醸成を図る中、先人が受け継ぎ発展させてきた北野の歴史と天神信仰に再び光をあて、「令和の北野祭」（八頁参照）として齋行し、新たな息吹をもたらししております。

御祭神菅公が遠く大宰府の地にて薨去せられてより、彼の地では菅公思慕の靈廟祭祀が厳肅に執り行われてきました。一方、国都平安京では、国宝『北野天神縁起繪卷』にも描かれる様に、菅公の怨霊から端を発し、薨去の四十四年後には、皇居の天門に位置する北野に御神霊が祀られ、村上天皇より御鳳輦の御寄進があり北野祭が始まったと伝えられます。毎年、菅公の御神霊を大宰府の御墓所よりお迎えすることを模すことにより、愈々御神威は高揚し、さらに一條天皇による葱華輦の御寄進では、中將殿（御嫡男菅原高視朝臣）の御神霊をお迎えし、ついに永延元年（九八七）一條天皇は北野祭に勅使を遣わされ幣を奉り、茲に勅祭「北野祭」を御齋行になりました。

そして菅公は「北野天満宮天神」の御神號を賜り、「天神」という神になられたのであります。その後、北野社は唯一臣下を祀る社として二十二社に加列、国家の大事を祈請する神に昇華され、千有余年の時を超え、今日の全国的な信仰に繋がっております。

勿論、御墓所（安楽寺、今日の太宰府天満宮）にも、事有る毎に御奉告の勅使が参向されてきたことは、天神様を奉祀する神社としてこの上ない有難いことでもあります。

引き続き、天神信仰千有余年の歴史を重んじ、さらに創建以来連綿と続いてきた天神信仰を次世代に継承するべく、諸神事を厳肅に齋行して参る所存でございますので、ご崇敬篤き皆様には、倍旧のご厚情を賜りますようお願い申し上げます。

令和五年七月吉日

北野天満宮

宮司 橘 重十九



# 令和九年半萬燈祭に向け、 国内最大級の木製大駒札お目見え 千玄室大宗匠ら除幕し、 諸祭事本格始動の象徴となる

## 晴天の下、除幕式並びに清祓齋行

令和九年に迎える菅公御神忌千百二十五年半萬燈祭の機運醸成と抔宜を図る木製の大駒札が完成し、その除幕式が七月三日、設置場所の一の鳥居前で行われ、四年後の祭典齋行に向けて動き出した。

「半萬燈祭の駒札お披露目です」との神職の合図で駒札に取り付けられた幕の紐が千大宗匠を始め役員・北野天満宮講社会員・崇敬者ら二十二人により力強く引かれ、参列者の拍手の中、大駒札がお目見えした。

全員が低頭する中、駒札の清祓が齋行され、厳粛のうちに滞りなく執り納めた。参列者は、駒札を見上げながら「いよいよ令和九年の半萬燈祭に向けて動き出した」と決意を新たにされていた。また、除幕式の様子を道行く人々が関心を寄せ見守っていた。

尚、東門の鳥居の前にも同様の告知を記したヒノキ材製の駒札（高さ二・六メートル、板面幅一・六メートル、高さ一・九メートル）が設置された。

## 国内最大級の木製大駒札

一の鳥居前の駒札は、ヒバ材で造られ、地面からの高さは約八メートルで上部の板面は幅二メートル、高さ二・六メートルと、現在設置されている木製駒札の中では国内最大級。そこに『令和九年菅公御神忌千百二十五年半萬燈祭』と墨書され、『大祭 三月二十五日 北野祭例祭 御霊会 九月四日 北野天満宮』と告知されている。

そもそも一般に駒札とは、社寺・旧跡などに由緒などを示すために設置される木製の立札のこと。将棋の駒に似ていることから駒札と呼ばれているが、元々は、奈良時代より江戸時代に至るまで法令や掟を民衆に周知するために建てられてきた「高札」の流れの末に位置付けられるものであると考えられる。（高札制度は明治六

年に廃止されている）  
当宮では、昭和三年の千二十五年半萬燈祭、昭和五十二年の千七十五年半萬燈祭の折にも、大祭の告知を一の鳥居並びに東門に掲出している（次頁写真参照）。残された千七十五年半萬燈祭の駒札設計図によると、全長は五尺九寸（約一・八メートル）、地上九尺（約二・七メートル）に掲げられたという。

## 一の鳥居も一本柱の明神鳥居としては国内最大級

大駒札が設置された一の鳥居は高さ十一・四メートルで、木曾産の花崗岩で造られた継ぎ目のない一本柱の明



除幕された大駒札の清祓



紐が引かれ大駒札お目見え



講社会員約二百名が参列



厳かに神楽「紅わらべ」奉奏



千玄室会長ご挨拶

神鳥居としては国内最大級である。  
 一の鳥居の建造は、明治四十四年に崇敬団体である梅風講社皆燈講によって計画され、大正十年十月に寄進されるという十年に及ぶ一大事業であった。建造にあたっては、重砲輸送用の車輛を使用し二条駅まで運ばれ、そこからは三十三頭と三十一頭の牛が曳く二台の牛車によって運ばれた。また、同時に奉納された「天満宮」の扁額は閑院宮載仁親王のご揮毫。掲げる当日は約二万人が見物に訪れ、予定していた餅まきも急遽中止になるほどの賑わいであったという。

## 厳かに講社大祭齋行 御本殿・中庭に二百人が参列

「紅わらべ」奉奏、千玄室会長玉串拝礼

北野天満宮講社（会長 裏千家千玄室大宗匠）の祭典・講社大祭が七月三日午後一時半から御本殿で厳かに齋行され、殿内と中庭に設けられた特設席に合わせて約二百人が参列した。

約四千人の講員名簿が供えられた御神前で宮司が祝詞を奏上し、巫女四人と神職が「紅わらべ」を奉奏した後、宮司と千会長が玉串拝礼し、天神信仰の益々の隆盛と講員の無病息災を祈願した。

祭典を終え、千会長が参列者に向かって「講社大祭にご参列頂き、ありがとうございます。皆様方のご賛助をもちまして重要文化財の東西廻廊の檜皮葺き替えも立派に完成致しましたこと、厚く御礼申し上げます。来る令和九年には御神忌千百二十五年の半萬燈祭を迎えますので、今後とも引き続きご支援の程よろしくお願います」と挨拶された。

この後、文道会館で直会が行われ、宮司が「千会長様、会員の皆様、崇敬者の皆様、ご参列誠にありがとうございます。平成十四年に千会長様のもと、千百年の大萬燈祭を齋行致しました。大萬燈祭は、古くから奉賛会を組織してご奉仕申し上げます。令和九年の半萬燈祭は天神さまのご遷座がございせんが、講社の皆様を中心に崇敬者の方々のお力添えを頂き、厳肅かつ盛大に齋行致したく存じます。その啓発の駒札が出来ましたので、この後、一緒に除幕したいと思います」と挨拶した。

田邊親男講社副会長は「ご列席の皆様方の弥栄と、半萬燈祭が盛大に催されることを祈念します」と乾杯の音頭をとられた。



令和九年半萬燈祭駒札（東門）



昭和五十二年半萬燈祭駒札



昭和三年半萬燈祭駒札



大正十年建造の一の鳥居

# 第一章 萬燈祭 — 「萬」の「燈」を点し、御祭神をお慰めする萬燈會

## — 千年祭の賑わいと伝えゆく燈明の灯 —

北野文化研究所 室長 松原 史

### 【萬燈の歩み】



(図一) 九百五十年萬燈祭絵図「京都北野天満宮一萬燈會之圖」

令和九年（二〇二七）に菅公御神忌千二百二十五年半萬燈祭を迎えるにあたり、先日一の鳥居および東門に駒札が立てられた。萬燈祭に向けて準備を進めていくにあたり、本号では萬燈祭の語源にもなり、かつ根幹を担う燈明に関して千年祭の献燈の賑わいなど振り返ってみたい。

### ■ 古くより続く萬燈會 — 燈明の信仰 —

そもそも燈明とは、神仏に供える灯火のことをいう。我が国では、奈良時代の白雉二年（六五一）よりその記録を見ることが出来る。懺悔や滅罪のために神仏に一万の燈明を供養する「萬燈會」は、以来奈良・京都を中心としつつ各地で行われており、その中でも江戸時代の錦絵でしばしば描かれる当宮の「萬燈會」は大変な賑わいを見せるものであった（図一）。九百五十年大萬燈祭の錦絵に描かれるのは、御本殿に向かい参詣する無数の人々と、境内に所狭しと設置された燈明台、そしてその中に設置された無数の燈明皿（油皿）である。皿になたね油をみだし、イグサの芯を抜いて作られた灯心を浸して火を点すのが、燈明であった。

平安時代より、神仏習合期の長きにわたり当宮と本山末寺の關係にあつた比叡山延曆寺においても燈明の信仰は色濃く、根本中堂には今も延曆七年（七八八）に最澄（伝教大師）により点された「不滅の法灯」が受け継がれている。後に触れる通り、当宮で燈明に火を点す折には、最澄の御歌「明らけく後の仏の御世までも光りつたへよ法のともしび」（仏の光であり、法華經の教えを表すこの光を、末法の世を乗り越えて弥勒如来がお出ましになるまで消えることなくこの比叡山でお守りし、すべての世の中を照らすようにとの願いが込められた歌）が唱えられていたという。延曆寺とともに育んできたこのような信仰が当宮の萬燈祭の根源にはあり、祭典

の由来となったといえるだろう。

### ■ 江戸時代、前田家の献燈

菅公を先祖と仰ぎ、劍梅鉢を家紋とし、江戸時代を通じて、萬燈祭ごとに刀劍を奉納するなど、当宮へ篤い崇敬を寄せてきた加賀前田家。慶安五年（一六五二）の七百五十年萬燈祭の折には、加賀前田家五代の前田綱紀公より五千燈の献燈があつたことが記録に残っている。たった一人で五千燈とは恐れいるというほかないが、これも篤い信仰のなせる技であろう。尚、綱紀公より七百五十年祭の折に奉納された刀劍が、現在宝物殿に収蔵されている鎌倉時代に鍛えられた重要文化財 太刀 恒次である。他にも当宮で万句連歌が行われ、禁裏においても後水尾天皇による連歌興行が行われるなど、七百五十年祭に限らずではあるが、文化的にも意義深い、大変華やいだ祭りであった。

### ■ 賑やかなりし九百五十年祭そして千年祭の萬燈會

明治三十五年（一九〇二）に斎行された千年萬燈祭は、近代を迎えて初めての大萬燈祭であり、より一層の力を入れて行われた祭典であった。千年祭齋行に先立ち、日出新聞（現・京都新聞）の記者、金子静枝（本名・錦二）が全十五回に渡り萬燈祭のあゆみなどを紙面でレポートしている。「千年祭の万燈會」と題され、「サアサ北野へ参りませう」の掛け声とともに始まる一連の連載記事には、江戸時代最後の嘉永五年（一八五七）に行われた九百五十年祭の燈明の仔細が明かされており、大変興味深い。

第一回の連載では、三月二十五日より向こう五十日の間昼夜となく点される「萬燈」に関して、一口で万というは容



(図二) 千年萬燈祭



(図四) 千百年大萬燈祭提燈光景



(図三) 千二十五年半萬燈祭

易いが、「土器に油を酌ぎ灯心を泳がせ之を押し火奴で燃す」うえ、火を消さぬように注意し恒例であれば前出の伝教大師の歌を唱え次へ行く、どう見積もっても一燈点すのになくとも二十秒はかかるだろう、三燈で一分、百八十燈で一時間、一人で万燈点すには二日と七時間半かかるなどと推測している。また油も五十日で少く見積もっても五十石（約九千リットル、なんと牛乳パック九千個分）は必要であろう、更に九百五十年祭の記録を参照するに、二十五日間で五十六万六千五百燈、一日平均二万二千七百燈という盛況で、その油は百七十石（約三万七千リットル）とあるから、此度はもつとであろうなど予想し、読者の興味をひいていく。

前例を鑑みつつ千年祭への来訪を促すという体で書かれた本連載によると、九百五十年祭当時は、朝の献饌や祝詞奏上が済むと御本殿の大床の正面に燈籠三基を据え、燈明を掻き立てながら伝教大師の歌を唱えだすと、境内十三箇所を設置された燈明小屋の燈明が一斉に（といいつつ順繰りに）点されるという手順であったという。

また北野の萬燈祭には、他社寺がおよばぬほど洛中ほもとより全国の崇敬者より献燈のほか献饌、献歌（漢詩、和歌、連歌）が奉納され、「京都の不景気をひっくり挽回した」と言われるような有様だったという。水桶、手桶、金銭、燈籠、米、梅樹、幟、油、錦、燈籠等、他にも多種多様の奉納品が工面されたため、市中の景気を刺激した様である。また二月一日から二十五日まで二十五日間の開催期間中に、のべ十八万七千四百三十七人、一日平均七千五百人弱が北野へ参詣するため旅籠屋に宿泊したという。宿泊者の宿泊代に加え、飲食代、日用品にお土産代なども含め並々ならぬ経済効果であったであろうと総括している。

さて、実際の千年祭の萬燈はどの様な仕様であったかというとうと、三月二十五日より五月十三日まで、五十日間に亘り毎日午前五時より正午までと、午後二時より午後九時まで毎に一萬燈、総計百萬燈を点するものであった。境内十箇所に分け、それぞれ三百から五千の明かりが点された（図二）。一燈の油量を一勺（おちよこ一杯程度）とし、一本燈心で点せば、六時間ほど点すことができたという。燈明の点灯には、「點燈夫」二十名が当たり、燈明は一燈三錢、一千燈で十五円、一万燈で百円であった。前田家当主の前田利為公は、ここ

でも一人二万燈を献燈している。昼夜点された燈明の灯はさぞかし御祭神をお慰めし世の人々の心に残るものであっただろう。

### 「守り伝えゆく燈明の灯 — 変わるもの、そして変わらぬもの —

明治になって行われた千年祭の折、神仏分離により仏教の流れを汲むこの萬燈の齋行に關しても廃止の議論があったという。しかし、慶長年間から行われる日本唯一の祭式を廃すのは御神威を汚す恐れがあるとのことで、恒例の如く千年祭においても萬燈が行われることとなった。萬燈廃絶の危機に際したこの英断が、現在まで続く萬燈祭を形作っている。

昭和三年（一九二八）に行われた千二十五年半萬燈祭では引き続き燈明台が設けられているが（図三）、時代の流れとともに次第に提燈が主流となっていく、前回の平成十四年（二〇〇二）千百年大萬燈祭で昼夜を問わず点されたのは一万の提燈の明かりであった（図四）。時代とともに移りゆくものもあるが、万の灯で神仏を慰めんとするその心は今も変わらない。現在も、当宮に唯一残る皆燈講の皆様が、毎月二十五日の御縁日ならびに大晦日に燈明の献燈を行っている（図五）。



(図五) 皆燈講による燈明  
燈明は御祭神をお慰めする淨火であると同時に星の象徴とされてきた。

#### 【主要参考文献】

- 日出新聞記事『千年祭の万燈會』（当宮所蔵貼交帳）明治三十五年
- 『天満宮千年祭 北野會誌』明治三十九年
- 石川県立歴史博物館『加賀前田家と北野天満宮』令和元年

# 半萬燈祭文化事業 『北野文叢』 デジタルアーカイブ

## — 宗淵と『北野文叢』と天神信仰 —

北野文化研究所 特別研究員 西山 剛

歴代の萬燈祭の折には、その時代ごとに様々な文化事業が行われてきた。先人に倣い、令和九年に迎える千百二十五年半萬燈祭に向けた文化事業として、天神信仰に関する最重要史料の一つである『北野文叢』のデジタルアーカイブを現在行なっている。

### 一、『北野文叢』の重要性

#### ■ 宗淵という人物

北野天満宮の歴史や文化、あるいは天神信仰のあり方を研究していく上で極めて重要な資料が当社に所蔵されている。『北野文叢』百卷(冊)がそれである。全体を遺文部・紀文部・抄文部・雑文部の四部に分類し、菅公の遺著をはじめ、国史・記録に散見するその事蹟はもちろん、縁起・系譜・年譜の類から、稗史・伝説・詩歌・俳諧に及ぶまで、菅公に関係する事項、および北野天満宮、天神信仰に関する事項が網羅されている。

この大著をまとめたのは北野社の社家を出自とした宗淵という人物で、日本史上屈指の学僧であった。

宗淵は北野の社僧光乗坊能桂の子として天明六年(一七八六)十月二十五日に生まれ、幼名を正丸(佐太丸とも)と称した。寛政二年(一七九〇)にわずか五歳にして宮仕に補せられ、文化七年(一八一〇)三月に中臈に進み光乗坊を称した。ところがその直後に彼は出家し、同九年には洛北大原の普賢院に入り、またその三年後には禁裏御懺法の会衆に列なり評価され、法印位にまで昇った。さらに文政元年(一八一八)には、普賢院を辞し叡麓坂本の走井大師堂に隠棲し、同十年、伊勢国津の西来寺の住職となり真阿と称し、その後、安政六年(一八五九)八月二十七日に同寺において七十四歳で死去した。

人生の大半を僧侶として過ごした宗淵だが、伝教大師(最澄)と菅公への尊崇の念は篤く、天台教学の振興と天台声明の興隆をめざして膨大な典籍の書写収集と校訂に取り組みとともに、天神信仰に関する諸史料の収集と書写に熱意を燃やした。

関東各地や九州大宰府など列島規模で天神信仰に関わる資史料を博搜・記録したこの事業は、文政の初年頃から三十年にわたって続けられ、宗淵が六十七歳の嘉永元年(一八五二)五月に至り、当宮に奉納された。当然、この一大事業の背景には宗淵が北野社に生を受けたこと、また菅公の後裔という自負があったことは間違いない。

### 二、デジタル撮影の様子と内容紹介

#### ■ デジタル化の必要性



(写真一)

天神信仰研究にとって決定的に重要なこの『北野文叢』だが、実は明治四十三年(一九一〇)に國學院大学から『北野誌』として翻刻・刊行されており、現在においても参照されることの多い重要な資料集として定着している。しかしながら、惜しむらくは本書編纂段階で『北野文叢』の記述を省略してしまった点である。とくに様々なバリエーションを持つ天神縁起のテキストを省略した点は、大きな問題であるといえるだろう。先述したように『北野文叢』は宗淵の驚異的な学究によって成った資料集であり、書写された書籍のいくつかは既に失われてしまったものもある。また、『北野誌』が

書籍というメディアのため、版組を整えるため原文にあった改行情報を捨象し、文章を整えてしまっているところもある。このような状況を鑑みると、当初の『北野文叢』自体をそのままの形でうつしとり、発信していく必要が



あるとはいえ、高精細のデジタル画像の獲得が現段階における最良のアーカイビングであると考えた。

## ■デジタル化の方法とその内容

令和五年二月、北野文化研究所に仮設撮影セットを組み、『北野文叢』百巻の全冊全丁撮影を実施した(写真1)。

撮影作業は、当宮の神宝撮影を手がける上杉遙氏に依頼し、三日間にわたって行われた。普段開かれることのない一冊一冊に対し、丹念にクリーニング作業を施しつつ撮影作業を実施し、撮影カット数は合計四七七カットに及んだ。もちろん、この中には『北野誌』では省略された文献も含まれている。いまそれを列挙すると次の通りである。



- 一、『天神記 五条家所蔵本』(第十三巻)
- 二、『荏柄天神縁起 群書類従本』(第十四巻)
- 三、『北野聖廟縁起 本宮内陣秘蔵本』(第十六巻)
- 四、『北野天神縁起 北野學堂本』(同)
- 五、『天神之縁起 北野本殿所蔵本』(第十七巻)
- 六、『北野天神御縁起 梅椿坊蔵本』(第十八巻)
- 七、『北野天神御縁起 一行坊蔵本』(第十九巻)
- 八、『北野天神御記 東坊城家蔵本』(第二十巻)
- 九、『北野縁起 北野本宮蔵本』(第二十一巻)
- 十、『天満宮御縁起 下 曼殊院御堂本』(第二十四巻)
- 十一、『北野縁起上巻抄 梅恭坊蔵本』(第三十一巻)
- 十二、『北野縁起上巻抄 梅恭坊蔵本』(第三十二巻)
- 十三、『北野縁起中巻抄 梅恭坊蔵本』(第三十三巻)
- 十四、『北野縁起中巻抄之余 梅恭坊蔵本』(第三十四巻)
- 十五、『御縁起注 玉泉坊蔵本』(第三十五巻)
- 十六、『御縁起注之余 玉泉坊蔵本』(第三十六巻)
- 十七、『菅原氏系図 押小路家所蔵本』(第三十七巻)
- 十八、『菅原氏系図 鎌倉一乗院所蔵本』(第三十九巻)

- 十九、『菅原氏系図 所伝不明』(第三十九巻)
- 二十、『賀茂略 塙本』(第三十九巻)

これら二十冊のうち重視したい点は、三『北野聖廟縁起 本宮内陣秘蔵本』(第十六巻)、四『北野天神縁起 北野學堂本』(同)、五『天神之縁起 北野本殿所蔵本』(第十七巻)、九『北野縁起 北野本宮蔵本』(第二十一巻)など、十九世紀段階には北野天満宮の内部には複数の異なる天神縁起(あるいは絵巻)が存在したということである。さらにいうと、これらのうち三・四・九は根本縁起である承久本系統の縁起文、五は弘安本系統の縁起文であることが判明する。すなわち、近世後期の段階では建久本、建保本という最古級の縁起文は社内でも活用されておらず、やはり承久本、弘安本が縁起文の基準であった可能性が考えられるのだ。

また現在、弘安本は当社ほか東京国立博物館、大東急記念文庫、シアトル美術館などいくつかに分蔵されている状況だが、『北野文叢』制作段階は未だ完備していたようで、欠けることのない本文が確認される。すなわち、本データは、弘安本を復元的に考える上でも、参照すべき重要なものである。

## 三、活用の方向

この取り組みで獲得されたデータ四七〇〇余点は、既に神社内部において整理がなされ、順次翻刻に取り組んでいる段階である。しかしその動きにあわせて、多くの方々にご利用いただくため適切な画像公開の方法も検討していかねばならないだろう。『北野文叢』が帯する価値は、世界中の多くの方々にも利用され、学ばれる中で高まっていくものであり、このことは北野天満宮がもつ天神信仰の学術拠点としての意義が再発見されていくことと同義といえる。この試みはそれに向けた小さな一歩に過ぎないが、令和九年菅公御神忌千二百五十年半萬燈祭に際する文化事業として極めて有益なものになると考えている。

### 【参考文献】

- 真阿宗淵上人鑽仰会編『天台学僧宗淵の研究』百華苑、一九五八  
竹内秀雄『日本歴史叢書 天満宮』吉川弘文館、一九六八  
竹居明男『天神さんの百科事典を作った宗淵上人』(『北野天満宮 信仰と名宝』、思文閣出版、二〇一九)  
本研究はJSPS科研費 22H04008 の助成を受けたものです。

# 勅祭に由来する「令和の北野祭」再興へ 例祭（大祭）を中心に、御手洗祭から瑞饋祭まで続く一連の祭礼

菅公御歌

彦星の行あひを待つかささぎの  
渡せる橋をわれにかさなむ

## 菅公精神に寄り添う北野の七夕信仰

当宮では、御祭神菅公の御歌「彦星の行あひを待つかささぎの渡せる橋をわれにかさなむ」の御心に添い、七夕信仰の篤い神社として崇敬されている。天門北野の地に由来する被いと清めの信仰、北極星瞬く星の信仰、北野御手水神事を縁とする水の信仰、西陣の機織りによる棚機信仰など、菅公精神と北野の信仰が融合された、他には類を見ない独特の神事形態を有する重儀である。

無実の罪により筑紫の果てに旅立たれた菅公は、遠く大宰府の配所の粗末な官舎に幽閉され、門外に出ることもなく謹慎された。心身ともに疲れ果てた我が身を憂いつつも、天皇を敬慕する心にいささかの曇りなく、ただひたすら祈りを捧げ、望郷の詩篇をいくつも創作された菅公の代表的な詩のひとつが「彦星の行あひを待つかささぎの渡せる橋をわれにかさなむ」の御歌である。

古くから七夕信仰には牽牛織姫二星の伝説が伝わるが、菅公が十一歳の砌（きざ）に詠まれた漢詩『月夜見梅花』には、「梅花似照星」（梅花は照れる星に似たり）との一節があり、「梅の美しさはまるで満天の夜空に輝く星のようだ」とする独特の美的感受性を持たれ、梅花を星に見立て、その美しさを表現されたことは大変有名である。また明治初期まで数百が存在した北野天満宮の「講組織」の中で、最も大きな組織はその名を「照星講」（しやうせいこう）と名乗り、星の信仰は天満宮崇敬者にとっても重要な要素のひとつだったと言える。当宮には、一夜にして千本の松を生やした御鎮座ゆかりの北野松原の松の葉の一本一本を夜空の星に見立て、天門に瞬く北極星を中心とした満天の星が輝く聖地とする伝説があり、星と梅と松は御神縁深いものとして捉えられている。

北野の重儀「御手洗祭」は、広辞苑に「京都の北野天満宮で七月七日に行う祭。神宝松風の硯と、清水を盛った角盥を添える。北野の御手水（おちょうず）」と記載されるほどの重要神事。また「北野御手水」は初秋の季語として、「御手洗祭。京都北野天満宮の行事で、学問の神として尊崇された菅公の七夕神事



例祭（九月四日齋行）



金蒔絵の角盥と梶の葉





御手洗川足つけ燈明神事



境内一円に七夕飾り

新暦七夕の七月七日、御本殿前など境内一円に様々な願い事を書いた笹飾りがお目見えした。一カ月後に始まる恒例神事「御手洗神事」(北野七夕祭)のさきがけとなるもので、京都府警平安騎馬隊の騎馬も駆けつけ、参拝者に交通安全と地域の安全を呼び掛けた。

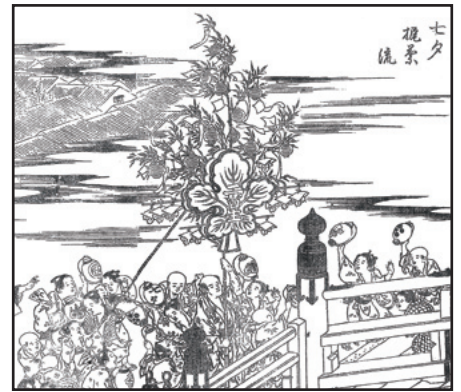
七夕の笹飾りは、氏子地域の子どもたちを始めとする住民や参拝者が「健康に夏場を過ごせますように」「病気はごめん!」「成績が上がりますように」など様々な願いを書き記した短冊を吊るしたもので約五十本。

七夕に呼応して昨年に引き続き、平安騎馬隊員や上京署員ら警察官十五人が参集。巫女の先導で鞍馬号と大江号の二頭の騎馬が楼門前から一の鳥居まで行進し、参拝者に安心・安全な街づくりを呼び掛けた。

時ならぬ騎馬の行進に一般参拝者や修学旅行生は驚きながらも大喜び。埼玉県から訪れた中学三年生は「たまたまの参拝が七夕で、格好いい騎馬の行進が見られてラッキーでした」と弾んだ調子で笹飾りに吊るす願い事を書きしたためていた。

### 御手洗神事(北野七夕祭)のさきがけ 境内に願い事満載の笹飾りお目見え 平安騎馬隊が安全・安心訴え参道行進

江戸時代後期、京都に関する地誌として刊行された『都名所図会』は、広く洛中洛外を代表する、いわゆる「都の名所」が描かれているが、北野の七夕祭りが当時の夏の風物として描かれている。絵図を細かく見ると、七夕笹や提燈を掲げた多勢の老若男女、童子たちが賑やかに七夕笹に集い、人々は北野天満宮の御神紋である梅鉢と三階松、そして紅葉の紋様を描いた提燈を手に行っている。中央の大きな七夕笹には、北野御手洗祭ゆかりの「梶の葉」を模した七夕飾りが取り付けられていることから、「梶の葉」が京都の七夕の象徴的な存在として捉えられ、梶の葉に書かれた「二星」は、七夕信仰には欠かせない牽牛織姫二星を表している。当時の都人にとって七夕祭りとは北野の祭りであったことが、まさにこの絵図から読み取れ、都の七夕を代表する夏の名物として興隆を見せたのである。



都名所図会(部分)

である。昔は、松梅院主が内陣で御手水を献じたので、北野御手水の名がある。現在は、七月七日、道真遺愛の松風の硯、水指、角盃に梶の葉を添え、御手水が神前に献じられる。」と記されるなど、それぞれ我が国の七夕を象徴する行事として記載されている。

御手洗祭は古来、北野の四季祭のひとつに数えられ、勅祭北野祭の「稷祓の神事」として斎行されていた。現在、一般的に七夕は七月七日であるが、当宮では旧暦の七夕にあたる八月七日に、菅公御遺愛の松風の硯や、短冊の前身である梶の葉を御神前にお供えし厳肅に祭典を斎行する。室町期には、角盃や水指を用いて御本殿内陣にお供えされた御香水(おこうずい)(神に捧げる神聖な水を意味する)を、朝廷や将軍家をはじめ、氏子崇敬者に配り、その水を服することで体の内から祓い清め、無病息災と疫病退散を祈願するという、いわゆる北野の御水取り・御水配りなどと言われる「北野御手水神事」が盛んに執り行われていた。



平安騎馬隊

# 半萬燈祭に向けた御社殿修復及び境内整備事業について

## 境内整備着々と

古くより、菅公薨去後五十年ごとに大萬燈祭、その中間の二十五年ごとに半萬燈祭と称し、最も重要な式年大祭を齎行して御神慮をお慰め申し上げるとともに、連綿と受け継がれてきた御社殿をはじめ様々な文化財を後世に継承するため、御社殿の大修理や境内維持整備等を行ってきた。

令和九年半萬燈祭に向けた事業は、平成十九年の史跡御土居のみじ苑整備を皮切りに、東西廻廊の御屋根葺き替えや御本殿内部全面柿渋塗り直しなど枚挙にいとまがないが、現在執り進めているのは中庭の玉砂利改修工事・小教院（旧社務所）改修工事・火之御子社御屋根葺き替え工事である。

## 御本殿前中庭玉砂利改修工事完了 七月十五日に清祓齋行



ことで車イスや足の不自由な方でも通りやすく、また御本殿中庭に相応しい威厳ある景観となった。

約二週間の工期で執り進めていた御本殿前中庭玉砂利改修工事が七月十四日完了し、翌十五日に清祓を齎行した。今回の工事では、透水性の優れた材料で地面を舗装することにより雨天時の水はけを改善し、天然の玉砂利を敷く

## 小教院改修工事はじまる

小教院（旧社務所）の改修工事が六月から本格的に始まった。本改修工事は今秋には完了予定で、御祈禱の待合室や各応接室に加え、七代目小川治兵衛氏作のお庭や奥の間（茶室）など全面的な改修を行う。

小教院は明治六年（一八七三）の竣工。当宮所蔵の『官幣中社北野神社明細図書』には、「明治六年六月建築修営官費」として、「皇典講究所平面図」とする図が描かれており、当時皇典講究所から社務所として整えられたことや、現在もその当時とほぼ同じ姿で残っていることがわかってい



な建物であることに比べ威圧感の無い外観や質素な内観は、その前身が貴族の住宅であったことや、質素な空間が求められた学問所であったことに由来すると考えられる。改修後、改めて詳述するが、いずれにしてもこうした由緒が尊重され、建て替えがなされずに現代まで大切に使い続けられてきたことに鑑み、参拝者をお迎えするために、より相応しい空間作りに向けて引き続き検討を重ねていく予定である。

## 火之御子社御屋根葺き替え工事はじまる



御祭神を「火雷神」とし、本社天満宮よりも遙か以前の御鎮座で北野雷公と称えられる火之御子社。平成十四年の大萬燈祭の営繕事業として御屋根葺き替えを行ったが、近年の台風や経年により傷

みがひどく、此の程工事を開始した。

同社殿は、慶長十二年（一六〇七）本社修造と同時に、豊臣秀頼公が片桐且元を奉行として建造したものであり、当時の棟札は今も保存されている。同工事は約三カ月の工期で進み、今秋には美しく蘇った御屋根をお披露目できる予定である。

# 北海道にて第五十七回全国天満宮梅風会総会開く



総会に先立ち、北海道神宮にて正式参拝

全国天満宮梅風会（会長 橋重十九当宮司）の第五十七回総会が六月二十日、菅公を御祭神とする全国天満宮の宮司をはじめ、神職・総代ら関係者約百五十名参加のもと北海道にて開かれた。当日は、総会に先立ち北海道神宮に正式参拝。御神前において大祓詞を奏上した後、橋会長が玉串を奉り参列者全員が祈りを捧げた。

その後、場所を定山溪温泉花もみじに移し総会を開催。

開会にあたり、梅風会北海道支部永井承邦監事が「全国津々浦々からのご参集心より歓迎申し上げます。北海道へは、是非何度もお越しいただき四季を堪能していただきたい」と挨拶された。国歌斉唱の後、大鳥居良人理事の先導で敬神生活の綱領唱和、続いて橋会長が挨拶。「情報過多により、真実を見極めることが難しい世の中だからこそ、菅公精神の『物事の本質を踏み外さず誠を極めよ』という言葉を大切にしたい。将来、社会がどのように変化しようとも天神信仰を日本文化の中核として国内外に発信し続けて参りたい」と述べた。

次に、当番地を代表し梅風会北海道支部中村文彦支部長が「最後に北海道で総会を開催してから十六年。コロナ禍も落ち着きを見せ、手探りではあるが従来通り温泉街での饗宴を伴う総会を開催できたことを嬉しく思う」と挨拶された。続いて表彰式の後、来賓を代表し北海道神社庁芦原高穂庁長が「北海道は開拓の地であり、その守護神である天神様は道民にも馴染み深い神様である。開拓の祖先



橋会長挨拶

の労苦に思いを致し、子孫に伝えていきたい」と挨拶された。この後、橋会長が議長となり議事に入り、令和四年度経過及び収支会計報告、監事からの監査報告の後、梅風会本部を太宰府天満宮に置く旨の規約（第二条）の改正案が上程された。これについて橋会長は「会長を務める者の神社に本部を置くのが本来かもしれないが、太宰府天満宮と北野天満宮は全国天満宮の宗祀であり、言わば両輪。北野天満宮が会長をお引き受けする時には太宰府天満宮に本部を置いてはどうか、と西高辻信宏副会長とかねてより相談してきた」と説明。本改正案は、満場一致で了承された。これを受け、企画運営委員長の南坊城光興理事が「事務局移動につき、梅風会御朱印帳の依頼は、今後太宰府天満宮にされるようお願いしたい」と説明した。

## ○次年度当番地は福岡県

次年度（第五十八回）の全国総会は福岡県で開くという理事会報告が了承され、梅風会福岡県支部宮原恭盛支部長が「来年は、福岡県支部が太宰府天満宮の職員の皆様と共に、全力を挙げて皆様をお迎えする」と挨拶された。

最後に服部憲明理事の先導で聖寿万歳を三唱し、総会は滞りなく幕を閉じた。

## ○賑やかに懇親会

懇親会では、西高辻信宏副会長が開会の挨拶をされ、鈴木宏明理事の音頭で乾杯の杯を傾けた。

尚、二日目には、大倉山展望台や札幌オリンピックミュージアムを見学し解散となった。

## ○京都府支部結成四十周年記念総会並びに一泊研修旅行開催

本年、梅風会京都府支部は結成四十周年の佳節を迎えることから、全国総会二日目から令和五年度京都府支部総会並びに一泊研修旅行を開催した。一行は小樽市内を観光の後懇親会を開催、翌日には彌彦神社を正式参拝するなど見識を深めた。

京都府支部は、全国天満宮梅風会の連絡組織として各都道府県に支部が結成される中、名実ともに天神信仰発揚の発祥の地ともいふべき京都に、天神様を御祭神と仰ぐ有志神職が相集い、昭和五十八年六月十五日に結成（小栗栖憲昌初代支部長）された。



京都府支部研修旅行 彌彦神社正式参拝



北海道支部中村支部長挨拶



北海道神社庁芦原庁長挨拶

# 天神さまと私



今号は、当宮と密接な関わりがある花街上七軒のお茶屋「中里」の女将中村泰子さんをお招きし、初めて「北野をどり」が開催された時のことや歌舞練場修復の苦労など橋宮司と話し合っていた。

(構成・編集部)

## 「天満宮と上七軒は一体

**宮司** 上七軒は、室町時代、北野天満宮の改築の折、余材をもって建てられた七軒の水茶屋を起源としており、京都の五花街（祇園甲部・宮川町・先斗町・上七軒・祇園東）の中では最も古い歴史と云われています。今、東門の外に広がっていますが、江戸時代の地図を見ますと当宮の境内地の中であり、当宮と上七軒は一体なんです。

**女将** いつも宮司さんからそう仰って頂き、歌舞練場の修復の時にもお世話になり、大変ありがたく思っています。先斗町や宮川町にいる友達からは「あんたそこはええな。天神さんがいはるさかいに」って、どんだけ言われたかわかりません。

**宮司** 「中里」は女将さんが四代目だそうですね。

**女将** そうです。

**宮司** 初代が中村さんと喜んで、「中里」の名がついたと伺っています。

**女将** ええ。二代目が千鶴で、それから伯母の種子が継いで、私です。種子さんは六十年ぐらい頑張ってはりました。

## 上七軒お茶屋「中里」女将 中村泰子 さん

**宮司** 創業はいつ頃でしょうか。

**女将** それがようわからんのだすわ。二十年ほど前やったと思います。百年の暖簾云々というものをもらってほしいということで、知事さんの方から問い合わせがあり、お寺さんへ行ったりして色々調べたんです。でもね、お茶屋に関係する史料は残っておらず、境内でお菓子屋さんみたいなことをやってみたいのですが、それもようわかりません。で、「はっきりした証拠が見当たりませんので、もう結構ですわ」と返事したら「あかん、祇園の力さんと、あんたそこは、そんなわけにはいかん」と言われて…。

**宮司** 「中里」になつてからはそんなに古くはなくても、上七軒にずっと家があったわけですね。

**女将** ええ。我が家にある七体の布袋さんは、人形屋幸右衛門とかいう江戸初期の著名な人形師によって造られたものですよって江戸時代から家はあったと思います。

**宮司** 江戸初期のとある屏風には、餅を焼いて商いをする元気な女性の姿が描かれるなど、上七軒は当宮の門前町として大変栄えていたことがわかります。また、天下を統一した豊臣秀吉公が、都市改造計画の一環として都を囲むように築いた全長約二十二キロメートルにわたる御土居。現在も当宮の西側に残り、初夏や秋のみじ苑として公開をしています。江戸時代にはこの上に夕涼みのためのお茶屋があり、そこで一杯ひっかけから上七軒へ出かけていくのも楽しみ方の一つであったというユニークな話もあったようですよ。ところで、天満宮へ初めて参拝されたのはいつですか？

## 「第一回「北野をどり」に八乙女として舞台に立つ

**女将** 参拝って、私は上七軒で生まれ育った上七軒っ子です。もの心ついたころから天神さんは遊び場でしたので、境内でも御土居でも、よう遊ばせてもらいました。上七軒のことをずっと知っているのは私ひとりになってしまいました。そうそう、「北野をどり」の舞台かて立たせてもらおうたんですね。

**宮司** 「北野をどり」は天満宮の千五十年大萬燈祭に協賛して昭和二十七年

に始まり、現在も続いている上七軒歌舞会  
の一大イベントですね。

**女将** そうどす、その第一回の出し物は「北  
野天神記」です。

**宮司** 女将さんは芸妓ではございませんが、  
どんな資格で舞台に立たれたのですか？

**女将** 私はまだ中学生ですよってに八乙女  
さんとして踊ったんです。あの頃、上七軒  
界限の子どもは、みんな舞や常磐津の稽古  
やらをやってました。私も小さい頃から芸  
妓さんと一緒に舞の稽古に励んでいました  
のでごくごく自然に。一度学校へ行つて「踊  
りどつきかい」と断つて帰ってきたんです  
よ。それも堂々と。

**宮司** まさに、花街上七軒の子どもです  
ね。第一回の「北野をどり」の写真類は、当宮  
にも残っていますが、その時の様子など記  
憶に残っていることは？

**女将** まだ北野会館で、客席は椅子と違  
うて棧敷でした。「北野をどり」というたか  
てネームバリューがおへんで、上七軒の  
ご鼠肩のお客さんは来られても満席など  
はなりません。しかし、ちゃんと芸のでき  
る芸妓はんがたくさんいましたので、  
口伝で評判が広がり、後になるほどだ  
んと客の入りが増えたんですえ。

**宮司** 「北野天神記」は、御祭神菅公の一  
代記であり、大萬燈祭を盛り上げる舞踏劇。  
当時の神職が残した記録では、讒言によつ  
て菅公を貶めた時平役にはなかなか手  
がつかず「時平役を演じたものは、翌日は  
菅公の奥方役にする」という条件付きで配  
役を決めたというエピソードを紹介してい  
ます。まさに当宮と上七軒の間柄を象徴す  
るものだと思います。



千五十年大萬燈祭（昭和27年）第1回「北野をどり」

**女将** そうそう。当時宝塚で『源氏物語』を上演しており、同じ平安時代や  
さかいに、時代考証を見ておこうということで、全員バスで見に行つたん  
です。「何ときれいな人がいっぱいいるわ」と、結構はまってしもうて、遊  
びほうけてしまいました。

**宮司** はいはい、宝塚にね。女将さん、歌舞会の会長さんをされましたね。  
**女将** 種子さんの後を継いで平成十一年から二十年ほど務めました。

**宮司** 女将修業は大変でしたか？

**女将** 種子さんは明治の人でしたさかい、うるさいこと言わはりましたけど、  
修業といえるものではありません。叱られたり、褒められたり、お客さんが  
教えてくれました。

### —苦勞した歌舞練場の修復—

**宮司** 会長時代は色々苦勞されたことを聞き及んでいます。

**女将** 毎日事務所に顔を出しましたよ。「舞妓をどうやったら増やせるか」  
といった問題は、種子さんのころからみんなが考えていたことなので、そん  
なの苦勞のうちに入りません。私が頭を抱えたのは、老朽化した歌舞練場の  
修復です。それもね、お茶席が雨漏りしたことがきっかけですね。全体が  
傷んでおり、修復するには莫大なお金がかかることを知ってびっくり仰天で  
す。古い人間ですよってに奉加帳をつくつて、まず大宗匠（千玄室裏千家大  
宗匠）のところへ足を運んだのが始まりです。後ほど「どないした？」と電  
話がかかってきたんで、歌舞練場の修復の話をしたんです。「あんたが一人  
で奉加帳かかえて回るようなことをしたら、いつまでかかるかわからん」  
と仰つて、秘書を差し向けられ、資金集めの方法を伝授されました。毎日毎日、  
大口どころを歩かせてもらい、その甲斐あつて資金が集まりました。修復ができた  
した。あの時、大宗匠のところへ相談に行かなんだら、まだうろろうしてい  
たと思います。

**宮司** まさに大宗匠のおかげでございますね。

**女将** そうどす。満百歳なのに今もあちこちの会合に顔を出され、海外にも  
よく行かれる。私らずっと年下やのに杖がないと動けない、恥ずかしおすわ。

### —千百年大萬燈祭では玉串拝礼—

**宮司** 千玄室大宗匠様には、平成十四年の千百年大萬燈祭の奉賛会長を務め  
て頂き、その後も崇敬組織の北野天満宮講社の会長をお務め頂くなど神社と



してもお世話になつてばかりです。

その大萬燈祭の時の上七軒歌舞会の会長が女将さんで、玉串拝礼もして頂きました。江戸時代、歌舞伎の祖と言われる出雲の阿国が、京で初めて歌舞伎踊りを披露したのが北野天満宮の東門あたりであること

などから、当宮は伝統芸能の神様、文化発信の中心地として崇敬を集めており、現在でも上七軒の芸舞妓らが昇殿参拝し「北野をどり成功祈願式」を斎行していますが、大萬燈祭の折には上七軒だけでなく他の四花街も、舞踊を奉納されたのは、ひとえに女将さんら歌舞会のみなさんのお陰だったと思っています。

**女将** いえいえ。真つ暗な中で待たせてもらうたことを覚えています。

**宮司** それは神さまが動かされる時

ですね。ところで女将さん、私は昭和四十年代の初めに天満宮へ奉職しましたが、上七軒が大変賑わっていたことを記憶しています。通りは静かでしたが、「中里」さんから誰でも知っているような有名な政治家や文人が出てくるのをこの目で見ており、驚きました。

**女将** そんな有名な方に芸妓さんも色紙を書いて頂いたりして、お商売としても結構な時代やったと思います。今はお茶屋は十軒ほどですが、もつともつと多かったですよ。

**宮司** コロナ禍でどこの花街もお客さんがグンと減り、大きな影響を受けたと聞いています。やつと収束への光が見え、いい方向に向かっているのでは？  
**女将** まだまだお客さんは戻っておらず大変ですよ。コロナで、せつかく増えてきていた舞妓はんがちよつと少のうなつたのも痛いですが。舞妓はんになろうかなあ、という娘さんがいても、長期間何もなしでも面倒みなあかんでしよう、置いてはるおうちは大変です。そやから一時、実家に帰ることになりますやん。夏休みとか冬休みとか、短い間なら何とかありますが、コロナみたいな長期なものはありません。「これでいいのかなあ」と考えてしまい、帰って来ない娘が多いみたいです。

**宮司** 舞妓さんや舞妓さん候補に辞めていかれるのはつらいですね。

**女将** ちゃんと一人前の舞妓にして人前に出せるように修業させてますよつてに。でも、最近の娘さんの気質も昔と違つてきています。取るに足らん、些細なことで辞めるんです。「そんな小さなことであんたの人生、決めてもいいんか？」と、言うても聞く耳持たずです。お客さんからは「今はなあ、簡単に辞める時代や。僕らの会社でも同じやで。縁がないんや。辛抱し」と慰められています。

**宮司** でも、コロナで二年休んでいた「北野をどり」が、今年三年ぶりに正常な形で催され、よかつたですね。

**女将** まだ芸舞妓の数もそろつておらず、正常な形やとは思つていません。でも、やつたことはよかつたですよ。何の催しもせずに「上七軒に来ておくれやす」と言つてもなかなか来て下さいませよつてに。「北野をどり」やと、東京や大阪、仙台とか、いろんなところへご案内申しますので、お客さんも「長いこと行つてないからいつペン顔見に行くわ」と言つて下さいます。そやさかい、催しごとはせなあかんのですわ。もう、夏のビアガーデンのこと、訊ねてくるお客さんかいてますんよ。

### 「中里」、上七軒のため、もうひと頑張り

**宮司** 今、一番の悩みはなんでしょうか？

**女将** 私も歳とつてきましたさかい、「中里」の後継ぎをどうするか、という事です。周りからも言われ、私自身も何年も前から考えてるんですが、なかなか…。教えなあかんこともありまして。ここまで先代を含めみんなが上七軒を守つてきたさかいに、灯を消さんよう元気なうちに決めなあかんと思つています。

**宮司** 「中里」といえば京都でも屈指のお茶屋さんですから、いろんな意味で大変だろうと思つています。女将さんのお話しをお聞きしていますと「中里」のみならず、上七軒をどう守つていくか、という気持ちひしひしと伝わつてきます。上七軒通は近年、石畳になり、電柱も地中化されるなどいい雰囲気になつてきましたね。

**女将** 石畳も街灯もほんまに結構な街並みに変わりました。若い人もよう歩かはるようになって喜んでいます。天神さんに見守つて頂いて、もうひと頑張りせなあかんと思つていますので、今後ともよろしくお頼み申します。

**宮司** 天満宮と上七軒は一体です。こちらこそ、よろしくお願ひします。



## 北野天満宮と上七軒の縁

今号の『天神さまと私』で宮司と対談された上七軒「中里」女将中村泰子さんの話の中で、「天満宮と上七軒は一体」の言葉が幾度となく発せられた。そこで、当宮と上七軒の結びつきなどを改めて探ってみた。

### ▼上七軒のはじまり

まず、京都最古の花街、上七軒の成り立ちを見る。江戸時代の叢書や言い伝えによれば、足利將軍の室町の頃、当宮の社殿が焼け再建の際、造宮の残木で七軒の茶屋を建て七軒茶屋と称したのが始まり、という。七軒の上「上」をつけたのは御所より上（北）にあるから、というわけだ。上七軒の茶屋と当宮社殿が同じ材木が使われたのなら、成り立ちからいつて深い縁である。

上七軒通りを巡行する御鳳輦



時代は下がって天正十五年（一五八七）、豊臣秀吉公が「北野大茶湯」を催した際、七軒茶屋で休憩、名産の御手洗団子を献上したところ、秀吉公は大層喜ばれ、団子を商う特権を与えられた、という。この由来から上七軒の紋章が「五つ団子」というのも頷ける。「北野大茶湯」は当宮境内で開いた大茶会で、毎年十二月一日に御本殿で斎行される今の献茶祭に繋がっている。

### ▼門前町として栄えた上七軒

さらに大事なことがある。上七軒が当宮の門前花街として発展してきたことだ。『京の花街 ひと・わざ・まち』（太田達、平竹耕三編著）Ⅱ日本評論社Ⅱには「今では一の鳥居が正面と解釈されているようだが、歴史上では、上七軒通と五辻通が御前通と交わるころ、すなわち現在の北野天満宮東門が、本来の正門と考えてよい」というのだ。

東門の鳥居に架かる「天満宮」の扁額が傷み、十年ほど前修理された。その際



五花街勢ぞろいで参拝

裏面に享和二年（一八〇二）の年号と「天台座主一品尊眞親王」の名があり、話題を集めた。当宮と比叡山は菅公の時代から強い関係があり、座主になられた法親王自ら門前町である上七軒からの入り口である東門の重要性に鑑み揮毫されたことも頷ける。また、瑞饋祭の還幸祭で、御旅所を出た三基の御鳳輦を始めとする豪華な巡行列が上七軒通を芸舞妓の歓迎を受けながら進み、東門から還るのも当然の流れといえよう。

現在、上七軒のお茶屋の数は十軒と少ない。しかし、門前町の色彩が色濃かった江戸時代はどうだったのか？ 京都町奉行所の手引書『京都御役所向大概覚書』によれば、元禄から正徳（一六八八〜一七一六）頃の上七軒の茶屋数は「鳥居前町十三、真盛町十九、右近の馬場（社家長屋町）十軒」となっており、上七軒―東門の参拝者の賑わいは想像に難くない。

### ▼芸能の神様への信仰

慶長年間、出雲の阿国が当宮境内でややこ踊りをはじめたことから、当宮は歌舞伎の発祥地として知られているが、こうした信仰から当宮の式年大祭・萬燈祭に際して京都五花街（祇園甲部・宮川町・先斗町・上七軒・祇園東）から芸舞妓の参拝も行われてきた。

### ▼梅花祭での野点大茶湯

菅公の祥月命日に当たる二月二十五日は毎年「梅花祭」が斎行される。この日の協賛席として上七軒歌舞会的女将から芸舞妓まで総出で奉仕する「梅花祭野点大茶湯」は、呼び物の催し。これも「北野大茶湯」の縁によって昭和二十七年から毎年行われている。奉仕の芸舞妓全員が梅花祭に寄せて献句し、宮司が審査するのも恒例となっている。

前出の書籍の編著者の一人、太田達立命館大学教授は「上七軒は、室町時代、北野天満宮と一緒の木材を使って建てられた七軒茶屋が起こりの京都最古の花街であり、町の人は、その後も天満宮と共に生きてきたことに誇りを持っていきますよ」と話されていた。



上七軒芸舞妓による野点大茶湯



千二十五年半萬燈祭に際し京都五花街参拝



# ようこそ 修学旅行の聖地 北野天満宮へ

## コロナ、季節性インフルエンザ並みになり

## 修学旅行生の昇殿参拝完全復活へ 境内に元気のよい若者の声弾ける

新型コロナウイルスの落ち着きとともに昨年、三年ぶりに修学旅行生の昇殿参拝が復活したが、今年さらには五月からコロナの感染症法上の位置づけが季節性インフルエンザ並みの5類になったことにより、一日六十二クラスの参拝日もあるなど完全復活の兆しが見え始めている。

学問の神さまを祀る当宮は、毎年全国各地から多くの修学旅行生が参拝する、まさに修学旅行の聖地。それも各学校のクラスごとに御本殿に昇殿して祈りを捧げる昇殿参拝が多いのが特徴となっている。ところが、コロナ禍

によつて令和二年、三年とほぼ参拝は皆無となっていたが、昨年は感染の落ち着きとともに三年ぶりに昇殿参拝復活の様相を見せた。

学生の賑わい戻る境内

さらに今年は、二月こそ六クラス（前年二クラス）と、多くはなかったが、三月四十四クラス（同十クラス）と増え始め、四月二百四十九クラス（同百八クラス）、五月七百九クラス（同五百八十二クラス）と、グンと増えた。とくに五月二十六日は一日で六十二クラスが昇殿参拝し、境内は元気のよい修学旅行生の声で沸き返った。「コロナの心配なく参拝できてうれしい」「来年の受験がうまくいくようお祈りした」などと、晴れやかな表情だった。

六月こそ前年よりわずかに減ったが、今年四月から七月十五日までの総数は千五百六十六クラスで、前年を大きく上回った。

コロナ禍前の令和元年同期間の数には及ばないものの、五月単独では四年前に近い数字となり、秋参拝の問い合わせや申し込みも連日入ってきており、昇殿参拝の完全復活は近いとみられる。

タクシーを利用しての自由参拝も数多く、マスクを外して参拝している生徒も見られ、コロナ明けを印象づける光景が見られた。また、神職に「天満宮の特徴は？」「牛の像が多いのはなぜ？」といった質問をし、動画に収める中学生のグループが何組もあり、賑わいを見せた。

### 修学旅行参拝者数

（令和五年二月一日～七月十五日）但し、お申し出を頂いた数

月	昇殿参拝	自由参拝
二月	五校	六クラス
三月	二二校	四四クラス
四月	一一二校	二四九クラス
五月	二八二校	七〇九クラス
六月	二〇五校	四五四クラス
七月	三三校	五四クラス
合計	六六八校	一五一六クラス

此の度の参拝を心の支えとされ、また天神さまの御加護によりご祈願の成就をお祈り申し上げます。



昇殿参拝





伊勢崎市立宮郷中学校	2クラス
伊勢崎市立境西中学校	2クラス
伊勢崎市立赤堀中学校	7クラス
伊勢崎市立第三中学校	2クラス
伊勢崎市立第四中学校	2クラス
伊勢崎市立第二中学校	1クラス
太田市立城西中学校	4クラス
沼田市立沼田中学校	4クラス
沼田市立多那那中学校	1クラス
沼田市立白沢中学校	1クラス
館林市立第三中学校	4クラス
藤岡市立西中学校	3クラス
藤岡市立北中学校	2クラス
富岡市立東中学校	1クラス
富岡市立南中学校	3クラス
富岡市立北中学校	1クラス
安中市立第一中学校	4クラス
安中市立第二中学校	1クラス
みどり市立大間々中学校	2クラス
甘楽町立甘楽中学校	3クラス
草津町立草津中学校	2クラス
昭和村立昭和中学校	2クラス
みなかみ町立みなかみ中学校	1クラス
玉村町立玉村中学校	2クラス
玉村町立南中学校	1クラス
板倉町立板倉中学校	1クラス
千代田町立千代田中学校	3クラス
邑楽町立邑楽南中学校	2クラス
高崎商科大学付属高等学校	5クラス

さいたま市立与野南中学校	2クラス
さいたま市立田島中学校	3クラス
さいたま市立土合中学校	2クラス
さいたま市立木崎中学校	1クラス
さいたま市立岸中学校	1クラス
さいたま市立大谷口中学校	6クラス
さいたま市立南浦和中学校	3クラス
さいたま市立岩槻中学校	4クラス
さいたま市立慈恩寺中学校	1クラス
さいたま市立西原中学校	1クラス
さいたま市立川通中学校	1クラス
熊谷市立大原中学校	1クラス
熊谷市立大幡中学校	1クラス
川口市立安行中学校	3クラス
川口市立元郷中学校	2クラス
川口市立戸塚西中学校	4クラス
川口市立在家中学校	4クラス
川口市立芝中学校	3クラス
川口市立小谷場中学校	2クラス
川口市立上青木中学校	4クラス
川口市立榑松中学校	3クラス
川口市立神根中学校	2クラス
川口市立西中学校	1クラス
川口市立青木中学校	3クラス
川口市立東中学校	6クラス
川口市立南中学校	1クラス
川口市立八幡木中学校	3クラス
川口市立北中学校	5クラス
川口市立里中学校	2クラス
川口市立領家中学校	1クラス
行田市立長野中学校	1クラス
秩父市立秩父第一中学校	1クラス
所沢市立安松中学校	1クラス
所沢市立所沢中学校	1クラス
加須市立加須西中学校	1クラス
加須市立北川辺中学校	1クラス
本庄市立児玉中学校	1クラス
本庄第一中学校	2クラス
春日部市立春日部中学校	2クラス
春日部市立春日部南中学校	1クラス

春日部市立大増中学校	3クラス
春日部市立武里中学校	1クラス
春日部市立豊野中学校	2クラス
幸手市立幸手中学校	3クラス
狭山市立山王中学校	3クラス
羽生市立南中学校	1クラス
鴻巣市立鴻巣西中学校	4クラス
鴻巣市立鴻巣中学校	5クラス
深谷市立岡部中学校	2クラス
深谷市立深谷中学校	1クラス
深谷市立幡羅中学校	3クラス
上尾市立原市中学校	1クラス
上尾市立上平中学校	1クラス
上尾市立太平中学校	1クラス
上尾市立大石中学校	3クラス
上尾市立大石南中学校	1クラス
越谷市立栄進中学校	1クラス
越谷市立西中学校	3クラス
越谷市立大相模中学校	2クラス
越谷市立大袋中学校	4クラス
蕨市立第一中学校	3クラス
蕨市立東中学校	1クラス
戸田市立美笹中学校	3クラス
戸田市立喜沢中学校	3クラス
戸田市立笹目中学校	1クラス
戸田市立戸田東中学校	1クラス
戸田市立戸田東中学校	1クラス
入間市立向原中学校	1クラス
和光市立大和中学校	1クラス
和光市立第三中学校	2クラス
新座市立第二中学校	4クラス
新座市立第六中学校	1クラス
桶川市立加納中学校	2クラス
久喜市立久喜中学校	1クラス
久喜市立久喜中学校	1クラス
久喜市立栗橋西中学校	1クラス
三郷市立栄中学校	4クラス
三郷市立瑞穂中学校	2クラス
三郷市立南中学校	5クラス
三郷市立彦成中学校	1クラス
蓮田市立蓮田中学校	4クラス
坂戸市立浅羽野中学校	3クラス

吉川市立吉川中学校	3クラス
吉川市立東中学校	1クラス
白岡市立篠津中学校	4クラス
伊奈町立小針中学校	2クラス
長瀬町立長瀬中学校	2クラス
神川町立神川中学校	3クラス
宮代町立須賀中学校	2クラス
宮代町立百間中学校	2クラス
杉戸町立広島中学校	1クラス
杉戸町立杉戸中学校	3クラス
松伏町立松伏第二中学校	2クラス
松伏町立松伏中学校	2クラス
川越市立川越西中学校	1クラス



成田市立吾妻中学校	1クラス
千葉市立さつきが丘中学校	3クラス
千葉市立轟町中学校	1クラス
千葉市立みつわ台中学校	1クラス
千葉市立稲浜中学校	3クラス
市川市立大洲中学校	5クラス
市川市立第三中学校	2クラス
市川市立第四中学校	1クラス
木更津市立岩根中学校	2クラス
松戸市立旭町中学校	1クラス
松戸市立栗ヶ沢中学校	4クラス
松戸市立吉ヶ崎中学校	1クラス
松戸市立根本内中学校	3クラス
松戸市立小金南中学校	1クラス
松戸市立常盤平中学校	8クラス
松戸市立新松戸南中学校	2クラス
松戸市立第五中学校	2クラス
松戸市立第四中学校	2クラス
松戸市立第二中学校	1クラス
松戸市立第六中学校	1クラス
松戸市立牧野原中学校	2クラス
松戸市立六実中学校	1クラス
松戸市立和名ヶ谷中学校	4クラス
野田市立岩名中学校	1クラス
野田市立川間中学校	3クラス
野田市立第一中学校	5クラス
野田市立第二中学校	1クラス
野田市立東部中学校	2クラス
野田市立南部中学校	3クラス
野田市立福田中学校	2クラス
野田市立北部中学校	5クラス
野田市立木間ヶ瀬中学校	2クラス
佐倉市立井野中学校	5クラス
東金市立東金中学校	1クラス
東金市立東中学校	4クラス
東金市立北中学校	1クラス
習志野市立第三中学校	2クラス
習志野市立第四中学校	2クラス
習志野市立第七中学校	4クラス
柏市立光ヶ丘中学校	1クラス
柏市立高柳中学校	1クラス
柏市立手賀中学校	1クラス
柏市立酒井根中学校	2クラス
柏市立松葉中学校	1クラス
柏市立中原中学校	1クラス
柏市立柏の葉中学校	3クラス
柏市立柏第五中学校	1クラス
柏市立柏第三中学校	4クラス
柏市立柏第四中学校	3クラス
柏市立柏第二中学校	1クラス
柏市立富勢中学校	1クラス

●埼玉県

●千葉県

市原市立八幡中学校	6クラス
流山市立おおたかの森中学校	1クラス
流山市立西初石中学校	2クラス
流山市立東深井中学校	4クラス
流山市立東部中学校	3クラス
流山市立南流山中学校	2クラス
流山市立八木中学校	4クラス
流山市立北部中学校	2クラス
流山市立流山南部中学校	4クラス
我孫子市立久寺家中学校	5クラス
我孫子市立湖北台中学校	2クラス
我孫子市立湖北台中学校	1クラス
我孫子市立布佐中学校	2クラス
鎌ヶ谷市立鎌ヶ谷中学校	1クラス
鎌ヶ谷市立第三中学校	3クラス
富津市立天羽中学校	2クラス
浦安市立見明川中学校	3クラス
浦安市立日の出中学校	1クラス
浦安市立入船中学校	3クラス
浦安市立美浜中学校	1クラス
浦安市立富岡中学校	4クラス
四街道市立四街道中学校	1クラス
四街道市立旭中学校	4クラス
印西市立印旛中学校	3クラス
印西市立小林中学校	2クラス
白井市立南山中学校	5クラス
富里市立富里中学校	9クラス
富里市立富里南中学校	3クラス
山武市立山武中学校	3クラス
山武市立山武望洋中学校	3クラス
山武市立成東東中学校	2クラス
栄町立栄中学校	4クラス

●東京部

目黒区立第七中学校	2クラス
小平市立花小金井南中学校	1クラス
あきる野市立西中学校	3クラス
都立日比谷高等学校	2クラス
都立両国中学校	2クラス
東京都立青山高等学校	2クラス

●神奈川県

横浜市立港中学校	1クラス
横浜市立仲尾台中学校	1クラス
横浜市立岩崎中学校	2クラス
横浜市立汐見台中学校	2クラス
横浜市立金沢中学校	2クラス
横浜市立港南中学校	1クラス
横浜市立旭中学校	1クラス
横浜市立瀬谷中学校	4クラス
横浜市立荏田南中学校	2クラス
横浜市立都田中学校	2クラス
川崎市立京町中学校	2クラス
川崎市立川中島中学校	2クラス
川崎市立大師中学校	2クラス
川崎市立渡田中学校	2クラス
川崎市立南大師中学校	1クラス
川崎市立富士見中学校	2クラス
川崎市立臨港中学校	1クラス
川崎市立御幸中学校	1クラス
川崎市立塚越中学校	5クラス
川崎市立南河原中学校	3クラス
川崎市立井田中学校	2クラス
川崎市立宮内中学校	4クラス
川崎市立玉川中学校	2クラス



川崎市立西中原中学校	9クラス
川崎市立平間中学校	3クラス
川崎市立橋中学校	2クラス
川崎市立西高津中学校	3クラス
川崎市立東橋中学校	2クラス
川崎市立稲田中学校	7クラス
川崎市立中野島中学校	2クラス
川崎市立南生田中学校	3クラス
川崎市立宮崎中学校	7クラス
川崎市立宮前平中学校	1クラス
川崎市立犬蔵中学校	4クラス
川崎市立向丘中学校	1クラス
川崎市立菅生中学校	2クラス
川崎市立平中学校	2クラス
川崎市立野川中学校	1クラス
川崎市立柿生中学校	2クラス
川崎市立金程中学校	2クラス
川崎市立長沢中学校	1クラス
川崎市立白鳥中学校	3クラス
川崎市立麻生中学校	4クラス
藤沢市立羽鳥中学校	2クラス
藤沢市立長後中学校	3クラス
藤沢市立藤ヶ岡中学校	1クラス
藤沢市立六会中学校	2クラス
小田原市立国府津中学校	3クラス
小田原市立城南中学校	2クラス
伊勢原市立成瀬中学校	6クラス
南足柄市立足柄台中学校	4クラス
寒川町立旭ヶ丘中学校	1クラス
湯河原町立湯河原中学校	1クラス

●新潟県

長岡市立岡南中学校	1クラス
柏崎市立北条中学校	1クラス
阿賀町立三川中学校	1クラス

●富山県

富山県立興南中学校	3クラス
富山県立月岡中学校	1クラス
富山県立南部中学校	5クラス

●山梨県

富士市立八尾中学校	1クラス
長野市立立上条中学校	1クラス
甲府市立城南中学校	1クラス
甲府市立東中学校	3クラス
甲府市立南西中学校	3クラス
甲府市立北中学校	1クラス
甲府市立北東中学校	1クラス
富士市立立下吉田中学校	5クラス
富士市立富士見台中学校	1クラス
富士市立立見見中学校	2クラス
南アルプス市立若草中学校	1クラス
笛吹市立石和中学校	5クラス
中央市立田富中学校	5クラス
組合立河口湖南中学校	4クラス



●長野県

長野市立広徳中学校	1クラス
長野市立屋陵中学校	2クラス
長野市立篠ノ井西中学校	3クラス
長野市立篠ノ井東中学校	4クラス
長野市立若穂中学校	2クラス
長野市立棉花中学校	3クラス

長野市立西部中学校	2クラス
長野市立東北中学校	1クラス
長野市立豊野中学校	1クラス
長野市立北部中学校	1クラス
長野市立柳町中学校	2クラス
長野市立櫻ヶ岡中学校	3クラス
長野市立戸隠中学校	1クラス
松本市立会田中学校	1クラス
松本市立高綱中学校	3クラス
松本市立女鳥羽中学校	3クラス
松本市立松島中学校	1クラス
松本市立信明中学校	4クラス
松本市立菅野中学校	4クラス
松本市立清水中学校	2クラス
松本市立筑摩野中学校	3クラス
松本市立波田中学校	3クラス
松本市立明善中学校	1クラス
信州大学教育学部附属松本中学校	3クラス
上田市立塩田中学校	1クラス
上田市立丸子中学校	2クラス
上田市立丸九子北中学校	2クラス
上田市立真田中学校	1クラス
上田市立第一中学校	1クラス
上田市立第五中学校	2クラス
上田市立第三中学校	1クラス
上田市立第二中学校	1クラス
岡谷市立岡谷南部中学校	1クラス
飯田市立旭ヶ丘中学校	3クラス
飯田市立遠山中学校	1クラス
飯田市立高陵中学校	2クラス
飯田市立鼎中学校	2クラス
飯田市立緑ヶ丘中学校	1クラス
飯田市立緑ヶ丘中学校	1クラス
諏訪市立諏訪西中学校	1クラス
諏訪市立諏訪中学校	3クラス
須坂市立常盤中学校	3クラス
須坂市立墨坂中学校	3クラス
小諸市立小諸東中学校	1クラス
駒ヶ根市立赤穂中学校	3クラス

中野市立南宮中学校	3クラス
中野市立豊田中学校	1クラス
長野県飯山市立城北中学校	1クラス
飯山市立城南中学校	2クラス
茅野市立北部中学校	1クラス
茅野市立長峰中学校	4クラス
塩尻市立丘中学校	2クラス
塩尻市立広陵中学校	1クラス
塩尻市立榑川小中学校	1クラス
組合立両小野中学校	1クラス
佐久市立中込中学校	2クラス
佐久市立野沢中学校	1クラス
千曲市立屋代中学校	3クラス
千曲市立戸倉上山田中学校	1クラス
千曲市立更埴西中学校	1クラス
千曲市立殖生中学校	2クラス
東御市立東部中学校	4クラス
安曇野市立堀金中学校	1クラス
安曇野市立穂高東中学校	5クラス
安曇野市立豊科北中学校	2クラス
安曇野市立明科中学校	1クラス
軽井沢町立軽井沢中学校	4クラス
御代田町立御代田中学校	1クラス
辰野町立辰野中学校	1クラス
箕輪町立箕輪中学校	1クラス
飯島町立飯島中学校	1クラス
宮田町立宮田中学校	1クラス
松川町立松川中学校	2クラス
高森町立高森中学校	2クラス
阿南町立阿南第二中学校	1クラス
阿南町立阿南第一中学校	1クラス
阿智村立阿智中学校	1クラス
豊丘村立豊丘中学校	2クラス
南木曾村立南木曾中学校	2クラス
大桑村立大桑中学校	1クラス
池田町立高瀬中学校	2クラス
白馬村立白馬中学校	2クラス
小谷村立小谷中学校	1クラス
長野県小布施町立小布施中学校	2クラス
高山村立高山中学校	1クラス

野沢温泉村立野沢温泉中学校	1クラス
小川村立小川中学校	1クラス
大町市立第一中学校	2クラス
信州大学教育学部附属長野中学校	1クラス
中野市立中野平中学校	3クラス
長野市立東部中学校	5クラス
飯田市立竜峡中学校	2クラス
上田市立第四中学校	4クラス
長野市立山陽中学校	2クラス
長野市立松代中学校	1クラス
佐久市立望月中学校	1クラス
伊那市立東部中学校	2クラス
南箕輪村立南箕輪中学校	1クラス
茅野市立東部中学校	1クラス
長野日本大学中学校	1クラス
静岡市立西奈中学校	1クラス
静岡市立長田西中学校	4クラス
静岡市立長田南中学校	1クラス
静岡市立清水興津中学校	1クラス
静岡市立両河内小中学校	1クラス
浜松市立開成中学校	6クラス
浜松市立丸塚中学校	1クラス



浜松市立湖東中学校	7クラス
浜松市立北浜東部中学校	1クラス
浜松市立佐久間中学校	1クラス
沼津市立愛鷹中学校	3クラス
沼津市立金岡中学校	5クラス
沼津市立原中学校	4クラス
沼津市立戸田小中一貫学校	1クラス
沼津市立今沢中学校	2クラス
沼津市立大岡中学校	6クラス
沼津市立第一中学校	2クラス
沼津市立第五中学校	2クラス
沼津市立第三中学校	3クラス
沼津市立第四中学校	1クラス
沼津市立長井崎小中一貫学校	1クラス
沼津市立浮島中学校	2クラス
沼津市立片浜中学校	2クラス
熱海市立初島中学校	1クラス
熱海市立泉中学校	1クラス
熱海市立熱海中学校	2クラス
三島市立錦田中学校	2クラス
三島市立中郷西中学校	4クラス
三島市立中郷中学校	2クラス
三島市立北上中学校	5クラス
三島市立北中学校	6クラス
富士宮市立井之頭中学校	1クラス
富士宮市立西富士中学校	1クラス
富士宮市立大富士中学校	4クラス
富士宮市立富士第三中学校	2クラス
富士宮市立富士第四中学校	1クラス
富士宮市立富士第二中学校	3クラス
富士宮市立富士根南中学校	6クラス
富士宮市立富士根北中学校	1クラス
富士宮市立北山中学校	2クラス
富士宮市立柚野中学校	1クラス
伊東市立宇佐美中学校	2クラス
伊東市立南中学校	6クラス
伊東市立北中学校	2クラス
島田市立金谷中学校	3クラス
富士市立岳陽中学校	3クラス
富士市立岩松中学校	6クラス

富士市立吉原第二中学校	5クラス
富士市立元吉原中学校	2クラス
富士市立須津中学校	4クラス
富士市立鷹岡中学校	4クラス
富士市立田子浦中学校	4クラス
富士市立富士中学校	6クラス
富士市立富士南中学校	8クラス
磐田市立神明中学校	1クラス
磐田市立磐田第一中学校	3クラス
磐田市立豊岡中学校	3クラス
焼津市立小川中学校	3クラス
焼津市立大村中学校	1クラス
焼津市立東益津中学校	2クラス
掛川市立原野谷中学校	2クラス
藤枝市立岡部中学校	2クラス
藤枝市立広幡中学校	2クラス
藤枝市立西益津中学校	1クラス
藤枝市立藤枝中学校	3クラス
御殿場市立原里中学校	4クラス
御殿場市立御殿場中学校	6クラス
御殿場市立高根中学校	2クラス
御殿場市立西中学校	3クラス
袋井市立浅羽中学校	2クラス
裾野市立東中学校	4クラス
湖西市立岡崎中学校	4クラス
伊豆市立土肥小中一貫校	1クラス
御前崎市立浜岡中学校	5クラス
菊川市立菊川西中学校	2クラス
伊豆の国市立大仁中学校	4クラス
伊豆の国市立長岡中学校	3クラス
函南町立東中学校	2クラス
函南町立函南中学校	6クラス
清水町立清水中学校	6クラス
長泉町立長泉中学校	3クラス
長泉町立北中学校	2クラス
小山町立須走中学校	1クラス
小山町立北郷中学校	2クラス
七尾市立中島中学校	1クラス

大阪体育大学浪商高校	1クラス
神戸星城高等学校	3クラス
兵庫県立明石高等学校	8クラス
朝来市立中川小学校	1クラス
奈良県立十津川第一小学校	1クラス
十津川村立十津川第二小学校	1クラス
和歌山県立開智高等学校	8クラス
山口県立山陽小野田市立高千帆中学校	1クラス
徳島県立城南高等学校	1クラス
小松島市坂野小学校	1クラス



「神社本庁協賛員特別祈願祭」 齋行  
 当宮では初、全国から約六十人が参列



神社本庁協賛員特別祈願祭

「神社本庁協賛員特別祈願祭」を六月二十二日午前十一時、御本殿に全国から約六十人の協賛員参列の下、厳かに齋行した。  
 今回で五十九回目となる協賛員特別祈願祭だが、当宮で行われるのは初めて。

齋主の祝詞奏上に引き続き二人の巫女と神職が紅わらべを奉奏。齋主に続き神社本庁田中恆清総長、京都府神社庁林秀俊副庁長、協賛員代表宮崎県神社庁本部雅裕庁長の三名が玉串拝礼した。

祈願祭後、楼門前で参列者全員の記念撮影があり、引き続き文道会館で直会が行われ、主催者を代表して田中総長が「コロナ禍のため三年間は案内できず、神社本庁の神殿で神事のみ齋行してきたが、此度、日頃から神社本庁のためにご協力頂いている皆様方に参列頂き、全国天満宮総本

社である北野天満宮の御神前で祈願祭が厳肅に齋行できたことは大変うれしい」と挨拶された。次に宮司が、当宮参拝の御礼を述べた後、「御祭神菅公は、一度この世に生まれ、薨去後神上がりされた方で、全国にある約八万社の神社のうち約一万社が天神さまとして祀られている」として、北野の地に神として祀られる経緯を話して、挨拶に代えた。

京都府神社庁林副庁長の音頭で乾杯があり、和やかな懇談に入った。同庁鳥居肇副庁長が中締め挨拶を行った後、史跡御土居もみじ苑の青もみじ観賞や宝物殿を拝観した。



直会の様子

全国八幡宮連合（総本部長・田中恆清石清水八幡宮宮司）の第六十八回総会が六月二十七日、八幡市の石清水八幡宮で開催され、翌二十八日当宮へ参拝された。

常任理事・北島孝昭氏（庄内神社宮司）が玉串を捧げ参拝の後、宮司が挨拶。「菅公が十五歳の元服の折、お家の繁栄と出世を願ひ石清水八幡宮様にお参りされた」と説明した上で、当宮の歴史を中心に述べた。その後、一行は文道会館で上七軒の舞妓や当宮巫女による呈茶を楽しまれた。

同連合は、全国の八幡大神奉祀神社の神職有志が集い、大神様の御神徳発揚と神職相互の研鑽、親睦を図ることを目的として昭和二十九年に結成以後、様々な事業を推進し、多彩な活動を続けられている。

全国八幡宮連合総会に伴い、当宮に正式参拝



正式参拝



上七軒の舞妓による呈茶

菅公  
御歌

このたびは幣もとりあへず手向山  
紅葉の錦 神のまにまに

# 史跡御土居の「青もみじ」公開、賑わう

コロナ5類、夜間開苑も人気に上乘せ  
「街中とは思えぬ」「夜の観賞は特別な風情」



新緑の青もみじ苑



幻想的な青もみじライトアップ

史跡御土居もみじ苑の青もみじの公開が今年も四月八日から六月二十五日まで行われた。新型コロナウイルス感染症の位置づけが季節性インフルエンザ並みに下がったことに加え、今年初めて試みたライトアップによる夜間開苑も人気上々で、期間中賑わいを見せた。

豊臣秀吉公が築いた境内の史跡御土居もみじ苑には約三百五十本のもみじがあり、京都市内では有数のもみじの名所。公開は、その色づきが楽しめる秋と、梅苑開苑中の春に限られてきたが、「初夏も御土居の雰囲気に触れたい」とする観光客からの要望が年々強くなり、平成二十七年からもみじの若葉が美しい初夏の「青もみじ」公開に踏み切った。

「青もみじ」は「若楓」として俳句の季語にもなっており、その美しさを愛でる人は昔からあった。鎌倉時代末期から南北朝時代を生きた兼好法師も「卯月ばかりの若楓、すべてよろずの花紅葉にもまさりてめでたきものなり」（『徒然草』百三十九段）と、青もみじの素晴らしさを綴っている。

当宮の青もみじの公開は、市内でも残っていると場所が少ない御土居の中という独特の景観の中にあり、絶好の散策スポットとして人気が高い。コロナ禍で令和二年、三年と青もみじの公開は見送ったが、昨年、コロナ禍が落ち着きを見せる中、三年ぶりに開苑すると、初公開以来の人気ぶりとなった。

そして今年も、コロナが五月八日に2類から季節性インフルエンザ並みの5類に引き下げられたことに加え、四月二十九日から五月七日までライトアップによる夜間特別開苑を始めたことで人気に拍車がかかった。

とくにゴールデンウィーク中の五月三日、四日、五日の三日間は目立って多く、外国人や修学旅行生の姿も見られ、活況を呈した。



咲き誇る山吹



「御土居を散策していると、これが京都の街中か？と不思議に思えるほど心が落ち着きます」「コロナ？もう忘れました」など入苑者の感想も上々だった。

## 初公開！青もみじ、ライトアップ



青もみじ初のライトアップ公開

より一層美しく幻想的な青もみじ苑を演出した。入苑者からは「ナイターの青もみじの観賞は特別な風情を感じます」「ライトアップされた青もみじがすごく瑞々しくてきれい」などの感想が聞かれた。

これまで秋のみみじ苑でのみ御土居のライトアップは行っていないが、今年初めて青もみじをライトアップし夜間特別公開としてゴールデンウィーク期間に限り公開した。今回のライトアップに合わせ、御土居内の照明器具も一部新たに増設し最新技術を用いたLED照明を使用することにより、昼間とはまた違った

## 京都三大学学生の演奏会 青もみじ観賞者、聴き入る



で行われ、青もみじ観賞者の耳を楽しませた。

この日演奏したのは、バイオリン、ピオラなど弦楽器のみの七人。全員揃っての演奏やトリオ、カルテットなど次々編成を変えながらモーツァルト、チャイコフスキー、ベートーベンなどのクラシックの名曲から『宇宙戦艦ヤマト』といったSFアニメまで全六曲を演奏した。大型連休さなかとあって、青もみじを愛でる参拝者も多く、弦楽器のさわやかな音色に惹かれて足を止め、聴き入っていた。

京都工芸  
繊維大学・  
京都府立大  
学・京都府  
立医科大学  
の学生らに  
よるオーケ  
ストラ（京  
都三大学  
合同交響楽  
団）のアン  
サンブルコ  
ンサートが  
五月四日  
夕、史跡御  
土居もみじ  
苑内の舞台

## 二回にわたり青もみじ太鼓奉納 神若会北野天神太鼓会



神若会北野天神太鼓会は、五月三日午後二時から一の鳥居前、午後五時からは御本殿前中庭で青もみじ太鼓を奉納した。十人のメンバーが、『山呼』『三宅』『一心』など六曲をバチさばきも鮮やかに演奏した。演奏の合間には太鼓会の紹介も行われ、六年前には京都市とパリ市との友情盟約六十周年を記念する行事として渡仏し、パリ市役所のホールで演奏したことなども紹介された。

約四年ぶりとなる一の鳥居前での演奏では、快晴のなか響き渡る和太鼓の音色に道行く人が次々足を止め、また、御本殿前の中庭では多くの参拝者が聴き入り、外国人の姿も多く見られ、ゴールデンウィークのもみじ苑を一層盛り上げ、演奏終わりにには多くの参拝者が拍手喝采をおくっていた。

# 北野の光

斎行された祭典・行事

《四月～六月》

## 賣茶本流献茶式を斎行

### 江戸期の賣茶翁が茶祖

煎茶の賣茶本流献茶式を四月九日午前十時から御本殿で斎行した。

賣茶本流は、江戸中期に賣茶翁と呼ばれた高遊外を茶祖とする煎茶道で、当宮での献茶式は昭和二十七年以来の恒例。社中の方が参列される中、同流十世の渡邊琢祥宗匠によってお点前が行われ、御神前に煎茶が献上された。

献茶式後、明月舎に茶席が設けられた。

## 無実の喜びを御神前に奉告 明祭（中祭）を斎行

菅公の冤罪が晴れた日に当たる四月二十日、御本殿において午前十時から明祭（中祭）を斎行し、御神前に無実の喜びを奉告した。

昌泰四年（九〇一）正月、菅公は左大臣藤原時平の讒言によって無実の罪を着せられ、従二位右大臣の位から九州・大宰府に大宰権帥ださいごんのそちとして配流され、二年後の延喜三年（九〇三）二月二十五日、失意のうちに薨去された。

二十年後の延長元年（九二三）四月二十日、冤罪は晴れて右大臣に復され、位も一階級上げて正二位に昇進、左降の文書は、その日のうちに焼却された。

なお、菅公は正暦四年（九九三）六月には正一位左大臣を、同年閏十月には人臣としては最高位の太政大臣を追贈されている。



## 十万枚の願いを焚き上げ 右近の馬場で祈願絵馬焼納式を斎行

昨年度一年間に入試合格や学業成就、コロナ禍退散など様々な願いを込めて奉納された絵馬を焚き上げ、願掛けされた人々の無病息災を祈願する「祈願絵馬焼納式」を四月四日午前十時から境内右近の馬場で斎行した。

新年度を迎えたこの時期の恒例の神事で、約十万枚の祈願絵馬に加え、疫病退散や災難除けなどの厄除け割符なども焚き上げられた。

忌竹にしめ縄を張り巡らせた斎場に奉納の絵馬がうず高く積み上げられ、斎主の祝詞奏上の後、御本殿にて火打ち石で鑽り出した浄火を付け木に移して点火すると、絵馬は音を立てながら勢いよく燃え上がった。

焚き上げが終わるまで神職が交代で大祓詞おほはらいごまを奏上し、絵馬を奉納した人たちの願いがかなうように祈った。参道を歩く参拝の人々が次々足を止めて、音を立てて燃え上がる絵馬焚き上げの様子に見入っていた。



## 撰社地主神社例祭

当宮が創建される以前から北野の地の地主神として御鎮座されている、当宮第一撰社地主神社例祭を四月十六日午前十時から斎行した。

地主神社は、『続日本後紀』承和三年（八三六）二月の条に「遣唐使の為に天神地祇てんしんちぎを北野に祀る」との記述があり、遣唐使発遣の無事を祈った古社。古くは例祭に神輿も出御したといわれる。



## 文子天満宮例祭 四年ぶりの神輿渡御に沿道沸く



地域の人たちから「文子さん」「文子まつり」と呼ばれて親しまれている末社文子天満宮の例祭を四月十三日から十六日まで齋行した。

文子天満宮は、菅公薨去後の天慶五年（九四二）、西ノ京に住む多治比文子という童女が「北野の右近の馬場（現在の本社鎮座地）に祀れ」との御託宣を受けたが、彼女は家貧しく、それに応えることが出来ず、自宅の傍らに小さな祠を建てて奉祀した。その後、文子らによって当社が創建されたが、文子天満宮は、最初に菅公を祀った小祠で、明治の初めに現在地に遷された。

神幸祭の祭典は、十三日午後二時から西之京瑞饋神輿保存会参列の下齋行され、御神霊が遷された神輿は、会員の人たちのお供によって同天満宮の御旅所（上の下立売通天神道上

ル北町）まで渡御した。

還幸祭の十六日は、午後一時から御旅所まで出御祭の祭典を齋行した後、神輿は保存会の人らの「ほいと、ほいと」の威勢のよい掛け声とともに地域を巡行した。コロナ禍によって文子天満宮の例祭は居祭での齋行が続いており、神輿渡御は四年ぶり。「文子さんの神輿を拝むのは久しぶり」と、沿道の住民を喜ばせ、獅子頭に頭を囁んでもらう子どもやお年寄りも多く、沿道は沸いた。

神輿の還幸後、御神霊は再び文子天満宮に遷され、午後四時から保存会会員・神職ら約百人の参列のもと祭典を齋行し、四日間に亘った「文子まつり」を終えた。



## 御神前に新酒供え献酒祭齋行 酒造りの安全と業界の繁栄を祈願

御神前に酒造会社などから奉納された新酒をお供えし、五月十七日午前十一時から御本殿で献酒祭を齋行した。

室町時代、当宮神人に麴造りの特権（北野麴座）が付与されたことから、当宮への酒造関係者の崇敬は篤い。今年も関西を中心に多くの酒造会社などから新酒が奉納され、御神前に供え酒造りの安全と業界の繁栄、関係者の無病息災を祈願した。献酒頂いた酒造会社・酒造組合は次の通り。（順不同）



酒造・藤岡酒造・キンシ正宗・玉乃光酒造・都鶴酒造・招徳酒造・城陽酒造・奈良豊澤酒造・丹山酒造・関酒造・大石酒造・長老・羽田酒造・波乃音酒造・平井商店・滋賀県酒造組合・古川酒造・太田酒造・北島酒造・暁酒造・松瀬酒造・喜多酒造・矢尾酒造・愛知酒造・藤居本家・吉田酒造・沢の鶴西日本支店・白鶴酒造大阪支社・本野田酒造・日本盛・北山酒造・白鷹・松竹梅酒造・辰馬本家酒造・國産酒造・万代大澤醸造・大澤本家酒造・大関・今津酒造・櫻正宗・菊正宗酒造・小山本家酒造灘浜福鶴蔵・剣菱酒造・安福又四郎商店・福徳長酒類関西支店・西宮酒造家十日会・灘五郷酒造組合・木下酒造・三宅本店・林酒造・山本酒造店

## 特殊神饌を供え、青柏祭を齋行

「北野四季祭」の一つとして古くから行なわれている、季節の変わり目の神事である青柏祭を、六月十日午前十時から御本殿で齋行した。

炊いた米を柏の葉に包んだ特殊神饌を御神前に供え、日々の神恩に感謝し氏子崇敬者の無病息災を祈った。

古代より柏の葉は、祭事用の器などに用いるなど神聖に扱われ、当宮の特殊神饌は、形も美しい独特のもの。この日、合わせてクルミ・梅水もお供えした。



## 雷除けと豊作願い 暁闇の祭典齋行 摂社火之御子社の例祭「雷除大祭」



「雷除大祭」の名で知られる当宮摂社火之御子社の例祭を、六月一日午前五時から齋行した。

火雷神を祀る火之御子社は、当宮の鎮座前から北野の地に祀られていた古社で、「北野雷公」の名で呼ばれ、朝廷では雨乞いや豊作の祈願などを行って篤く崇敬した。この日は電力会社や電気工事に従事する人、釣り人、ゴルフアーなどの参拝が多く、雷除けの信仰は今日も続いている。

暁闇の祭典は、開門前古式に則り火打ち石で浄火を点じて齋行し、雷除けと五穀豊穡を祈願した。お被いたした御札・御守りは午前七時の開門と同時に参拝者に授与したが、終日

## 北野の地に鎮座の日 宮渡祭（中祭式） 齋行

北野の現在地に当宮が鎮座された日に当たる六月九日、御本殿において午前十時から宮渡祭（中祭式）を齋行し、往時を偲んだ。

大宰府で薨去された菅公の御神霊から、天慶五年（九四二）七月、西ノ京に住む多治比文字という童女に「北野の地に鎮まりたい」との御託宣があつたが、家貧しく応えられず、代わりに自宅の近くにお祀りした。五年後の天曆元年（九四七）に近江比良宮の神主神良種の子、太郎丸という七歳の少年にも同じ御託宣があり、文子・良種・北野朝日寺の僧最珍らが協力して平安京の北西（乾）の現在地に天満宮を創建したのが同年六月九日であり、毎年、この日に祭典を齋行して往時を偲んでいる。



## 竈社例祭

末社竈社例祭を、六月十七日午前十時から齋行した。

竈社は、現在東門内北側に鎮座しているが、元々は当宮の神饌を調理する御供所に祀られていた台所の守護神である庭津彦神・庭津姫神と、火を司る火産霊神を竈大神としてお祀りしている。

当社は明治十四年のこの日に末社に列せられたことから、毎年例祭を齋行しており、神職らが氏子崇敬者各家庭の家の安全を祈った。

なお、御本殿の床下には、昔から神饌調理に使われてきた大釜が納められている。

参拝者が途切れなく訪れ、雷除け信仰の篤さを感じさせた。

御本殿前の中庭には、この日から昨年と同じく人の背丈ほどの「茅の輪」が設置され、雷除けのお札を授かった人々や修学旅行生らが、無病息災などを願って次々とぐり抜けていた。



## 大福梅の摘み取り 御神木の「飛梅」が四年ぶり実をつける

正月の縁起物「大福梅」となる境内一円の梅の実の摘み取りが、五月二十五日から一週間がかりで行い、例年通り約二トンを収穫した。

「大福梅」は、正月の祝膳に欠かせない厄除け信仰による縁起物。境内には約五十種・千五百本の梅の木があり、この時期の恒例の実った梅の摘み取り作業は、神職・巫女・職員らが行った。

御神木「飛梅」は、当宮創建時より御本殿前に植えられており、全国に数ある飛梅伝説唯一の原種として信仰されてきた当宮第一の御神木である。この御神木を後世に伝えるため、近年住友林業と組織培養によって種の保存に取り組んでおり、今春には世界で初めて組織培養の梅が開花し、話題となった。実のなりにくい品種だが、今年は今和元年以来四年ぶりに実をつけた。採取した巫女は「コロナも落ち着いた年に御神木の梅が実をつけたのは縁起がよくうれしい限り」と話した。

採取した梅の実が梅雨明けを待つて土用干しにされる。



## 二條流の献茶式齋行

煎茶道の二條流献茶式を、六月十一日午前十時から御本殿で齋行した。

二條流は、明治元年、神戸に於いて水島雅荘氏によって創設された煎茶道。

御本殿に社中の方々が大勢参列される中、七世二條雅瑛家元のご奉仕によって厳粛にお点前が行われ、御神前に煎茶が献上された。

献茶式の後には、明月舎に茶席が設けられ、門人らが茶席を楽しんだ。

## 境内で迫真の消防訓練実施 夏の文化財防火運動

夏の文化財防火運動の一環として七月十四日、大掛かりな消防訓練が境内で行われ、上京消防署、上京警察署、当宮自衛消防隊、上七軒歌舞会などから総勢約七十人が参加した。開会式で権宮司が「当宮には火災と復興の歴史がある。貴重な文化財は失うことなく未来に繋げなければならぬ」と、西野匠上京警察署長が「火災・災害は予測なく起きる。日頃の訓練が大切だ」と、それぞれ挨拶した。

訓練は国宝の御本殿裏から出火の想定で行われ、当宮自衛消防隊員や舞妓などの初期消火に続き、消防車も到着し消防署員による放水が行われた。この間、御本殿内の宝物の搬出やけが人の救出、刃物を持った放火犯役の「逮捕劇」など迫真の訓練となった。

訓練後、整列した参加者を前に千代田文皇上京消防署長が「有意義な訓練だった。貴重な文化財を火災から守るため、今日学んだことをいかしてほしい」と、講評した。



# 無病息災を祈る夏越の二神事齋行

## 夏越天神 御本殿で御誕辰祭厳かに 楼門の「大茅の輪くぐり」人の波

御祭神菅公の御誕生日に当たる六月二十五日、御本殿で午前九時から御誕辰祭を厳かに齋行した。

菅公は、承和十二年（八四五）の六月二十五日、文章博士だった菅原是善公の第三子として京都で誕生され、延喜三年（九〇三）二月二十五日、配所の九州・大宰府で薨去された。

こうした御神縁によつて、当宮では毎月二十五日を「天神様」の御縁日として祭典を行い天神市などを開いているが、御誕生日の六月はとりわけ「夏越天神」と呼ばれ、盛夏を控えての厄除けと夏場の健康を願う信仰が根付いている。

御本殿における御誕辰祭は、境内で採れたもぎたての梅の実などが御前に供えられ、宮司以下神職によつて厳かに齋行された。

楼門での「大茅の輪くぐり」は、「夏越天神」の日の恒例の催し。大茅の輪は、直径五メートルもある京都では最大級の大きさで、開門と同時に参



拝者が夏場の健康と無病息災を祈つてくぐり抜け、終日賑わった。この日の京都市内の最高気温は三〇・六度と真夏日となったが、コロナが季節性インフルエンザ並みの5類に引き下げられたためか露店も多く開かれ、境内は終日参拝者で賑わった。



## 小雨の中、夏越の大祓に二百人が参列 半年間の穢れを祓い、夏場の健康を祈願

夏越の大祓を、六月三十日午後四時から御本殿前の中庭で齋行した。あいにくの小雨模様となり傘を差しての大祓となったが、崇敬者・参拝者約二百人が参列した。

六月と十二月の晦日みそかに齋行される大祓は、無意識のうちに身についた罪や穢れを祓い清める古くからの神事。神職・参列者が大祓詞おほはえことばを声を揃えて奏上、切麻きりぬきにて邪気を祓った。この後、小雨の中、神職・神社役員に続き神職の先導で参列者が中庭の背丈ほどの大きさの茅の輪を古式通り三度くぐり、半年間に身についた罪・穢れを祓い清め、夏場の健康と無病息災を祈った。また、氏子崇敬者が納めた人形・車形代なども唐櫃に入れ、神職が担いで茅の輪をくぐり祓った。



# 令和再興 北野祭

八月五日～十三日

## 北野萬燈会・七夕ライトアップ

来る令和九年齋行の半萬燈祭の機運を宣揚するため行っている北野萬燈会。三光門前参道に、崇敬者からの奉賛提燈約千五百燈に火が点され、御祭神に願いの灯りが届けられる。

また、平安京の天門に鎮座する当宮は、日・月・星の三辰信仰の聖地でもあり、天の神氣の満ちる場所と考えられてきた。その境内一円に色とりどりに飾られた七夕笹を灯光で照らし、幻想的な雰囲気の中、夜間参拝を実施する。



八月七日

## 御手洗祭

当宮では七夕神事を御手洗祭と称して齋行し、内陣に菅公御遺愛と伝わる松風の硯・角盥・水差し・梶の葉に色紙を添えお供えする。

北野の四季祭の一つにも数えられるこの祭典は、北野祭の前儀とされ、祓いと清めを意味する重儀である。古くは祭典中に梶の葉に水を掛ける儀式があり、梶の葉が手の形に見えることから御手水を表しているといわれている。



九月四日

## 例祭【大祭】・北野御霊会

永延元年（九八七）一條天皇が初めて北野祭を勅祭として齋行された由縁による、一年で最も重要な祭典。

前日より参籠・潔斎した宮司以下神職が御本殿の御扉を開き、雅楽の調べの中神饌を供し祝詞を奏上する。引き続き比叡山延暦寺一山出仕の僧侶たちが、御本殿内に設けられる密壇の前で法華三昧を法要し、御祭神の御霊和めと疫病退散を祈り上げる。



十月一日～五日

## 瑞饋祭（ずいきまつり）

菅公薨去後、大宰府に随行した北野の神人が、京都へ戻って始めたとされる秋の豊穰祭。かつての北野祭に伴う村上天皇御寄進「第一鳳輦」、一條天皇御寄進「葱華輦」など、絢爛豪華な渡御列の一部が遺り、期間中は表千家ご奉仕による献茶祭、七保会ご奉仕による甲御供奉饌等が行われる。また、御旅所に奉納される「ずいき御輿」は、西之京瑞饋神輿保存会の人たちによって造られ、四日に氏子地域を巡行する。





## 祭事暦 (7月1日～10月5日)



### 《7月》

- 1日 午前10時 月首祭
- 3日 午後1時半 北野天満宮講社大祭
- 12日 午前10時 當日祭
- 15日 午前10時 月次祭
- 25日 午前9時 月次祭
- 午前11時 新茶奉献奉告祭
- 午後4時半 夕神饌

### 《8月》

【赤字表記：北野祭祭礼】

- 1日 午前10時 月首祭
- 《北野御手水神事》
- 6日 午後4時 御手洗祭前夕饌
- 7日 午前10時 御手洗祭
- 13日 午前11時 学業大祭
- 15日 午前10時 月次祭
- 25日 午前9時 月次祭
- 午後4時半 夕神饌
- 27日 午後3時 奉納図画展授賞式

### 《9月》

- 1日 午前10時 月首祭
- 3日 参籠
- 4日 午前10時 例祭・北野御霊会 (大祭)
- 15日 午前10時 月次祭
- 23日 午前10時 秋季皇霊祭遥拝式
- 24日 午前9時 神輿飾り
- 25日 午前9時 月次祭
- 午後4時 夕神饌
- 26日 午後4時半 稚児奉仕者奉告祭
- 29日 午後4時 明月祭
- 30日 参籠

### 《10月》

- 《瑞饋祭》
- 1日 午前9時 神幸祭 出御祭 (本社)
- 2日 午前10時 献茶祭 (御旅所) 表千家宗匠奉仕
- 3日 午後3時 甲御供奉饌 (御旅所) 西ノ京七保会奉仕
- 4日 午前10時 還幸祭 出御祭 (御旅所)
- 5日 午後3時半 后宴祭 (本社)



## 月釜献茶 (7月1日～9月30日)



### 《7月》

- 1日 献茶祭保存会 金澤 宗維 (明月舎)
- 9日 梅文会 各流派合同茶会 (松向軒)
- 15日 献茶祭保存会 鮎子田 宗恵 (明月舎)
- 松向軒保存会 休 会 (松向軒)
- 23日 紫芳会 新居 万太 (松向軒)

### 《8月》

- 1日 献茶祭保存会 速水濂源居 (明月舎)
- 13日 梅文会 休 会 (松向軒)
- 15日 献茶祭保存会 休 会 (明月舎)
- 松向軒保存会 休 会 (松向軒)
- 28日 紫芳会 休 会 (松向軒)

### 《9月》

- 1日 献茶祭保存会 官和会〈官休庵社中〉 (明月舎)
- 10日 梅文会 晴風会 (松向軒)
- 15日 献茶祭保存会 分林 宗智 (明月舎)
- 松向軒保存会 藤井 宗恵 (松向軒)
- 24日 紫芳会 井田 宗美 (松向軒)



## 七月二十五日

### 新茶奉献奉告祭

京都近隣の宇治・宇治田原・木幡・城陽・佐山・京田辺・醍醐・伏見・向島・綴喜・山城・南山城・信楽など、銘茶の各生産地で摘まれ奉納された新茶を御神前に供え、茶業の安全と発展を祈願する。

当宮と茶業との御縁は、天正十五年(一五八七)当宮境内で豊臣秀吉公により開かれた北野大茶湯の由縁に始まり、以来当宮は、茶業家からの信仰が殊に篤い。



## 八月十九日～二十七日

### 奉納図画展

夏休みの恒例となつてゐる奉納図画展を、八月十九日午後より西廻廊にて開催し、地域の子供たちが描いた力作を展示公開する。

## 八月二十七日

### 奉納図画展授賞式

入賞者参列のもと、御本殿にて祭典を斎行し、優秀作品の授賞式を執り行う。



スーパーカー約六十台が集結、交通安全祈願  
文道会館では「車と文化」のシンポジウム



全国から集まったスーパーカー

「牛」のエンブレムでおなじみのランボルギーニを始めとするスーパーカー約六十台が四月二十三日、当宮に集結、各車のオーナーが御本殿に昇殿参拝して交通安全の祈願をした。

「KYOTO スポーツカー・ヘリテージ・ギャザリング&パレード」と題する催し。御祭神の天神さまのお使いが「牛」という御神縁から「交通安全を誓おう」と、ランボルギーニを始めとするスーパーカー愛好家らが自動車評論家の西川淳氏の呼びかけで七年前から実施している。コロナ禍の影響で二年間は中断し、昨年三年ぶりに規模を縮小して行ったが、今回は、ランボルギーニ創立六十周年の節目の年でもあり、コロナ禍前の状態に復した形での参加を呼び掛けた。

このころには多くのスーパーカーファンで駐車場は混み合い、お目当ての車両をスマートフォンで撮影したり、オーナーに説明を求めたり、中には座席に座らせてもらって喜ぶファンの姿も見られた。

文道会館では「京都から自動車の未来と文化を考える」と題するシンポジウムが行われた。西川氏の司会によって京都先端科学大学学長の前田正史氏、モータージャーナリストの岡崎五朗氏、キャスター・ジャーナリストの竹内弘一氏が、「なぜ京都は自動車に縁の深い企業があるだけでなく、何人も著名なレーシングドライバーが輩出されるのか？」といった京都人の本質に迫る文化論やEV（電気自動車）論、自動運転車の未来まで幅広い論議が行われた。

午後からは、東門前で神若会北野天神太鼓会が和太鼓の演奏をし、西川氏が「交通ルールに則り安全運転に努めます」と交通安全宣言を行い、京都府警の白バイの先導のもと、ランボルギーニに限定した交通安全啓発パレードを行った。



正式参拝

北野祭保存会  
北野神輿会

京丹後大宮賣神社で御田植祭  
京都産業大学下出ゼミ生も参加



御田植祭斎行

当宮崇敬団体北野祭保存会・北野神輿会（井上経和会長）は、五月七日当宮と御神縁深い京丹後市大宮町周枳に御鎮座する大宮賣神社（島谷泰夫宮司）の御田植祭に参列し、特設された斎田に苗を挿して、豊穣の祈りを捧げた後、近くの田んぼで田植えを行った。

両会は応仁の乱で途絶えた「北野祭」の再興に向けて様々な取り組みを行っており、その一環としてかつて大嘗祭の主基の地であった周枳の方々の協力を得て田植えと稲刈りを奉仕し、収穫した米を秋の瑞饋祭にお供えの上、奉仕者への宮弁当として振る舞っている。

今年も昨年に引き続き勅祭北野祭について、その歴史や内容を調査研究し、瑞饋祭にも奉仕するなど当宮の祭典に携わってきた京都産業大学下出祐太郎ゼミ生約四十人と今年初めて当宮のポイイスカウトも十人が共に御田植を行った。

当日はあいにくの雨模様となり、恒例となつている神若会北野天神太鼓演（竹内勤会長）による和太鼓の奉納演奏は中止となったが、御田植の時間になると小雨になり、参加者は水田に入り田植えを行った。御田植の後には近くの施設において参加者と氏子の方々の交流会が開かれた。

大宮賣神社は周枳神社の別名もある古社で、かつて大嘗祭の周枳地方に選ばれた。当宮の末社にも周枳社が祀られており、境内西側を流れる紙屋川は古くは荒見川と呼ばれ、大嘗祭に先立つ祓の儀式（荒見川祓）が行われるなど同地と北野は深い御神縁がある。



田植えの様子

柔道ゆかりの社に  
講道館館長上村春樹氏らが参拝

嘉納治五郎が創設し、柔道の総本山とも言われる講道館の第五代館長・上村春樹氏が四月三日、当宮を参拝された。

当宮は古来武神としての信仰も篤く、中でも柔道・柔術は御神縁が深い。

江戸時代後期に紀州藩士・磯又右衛門柳閑斎源正足は、殊の外天神信仰に篤く楊心流・真之神道流柔術を学び奥義を極めた後に当宮へ参籠祈願し、「天神真楊流柔術」を編み出した。  
嘉納治五郎は、天神真楊流を三代目磯正智から習得し、今の講道館柔道の源流を作り上げたと言われている。

当日は、権宮司案内のもと天神真楊流の門人らが明治三十三年に奉納した絵馬を見学。同絵馬には、天神真楊流の奥義が書かれた天・地・人の巻物が納められていると伝わり、絵馬にずらりと並ぶ門人らの名前に興味深く見入った後に正式参拝され、今後の柔道界の発展と武運長久を願われた。

当宮では、毎年秋に天神真楊流をはじめとする古武術四流派による奉納演武が行われ、気迫の籠った技の数々をご覧いただける。



女流棋士の  
佐々木海法さんが正式参拝

日本将棋連盟（関西本部）所属の女流棋士佐々木海法さん（十八歳）が、六月十七日当宮を訪れ正式参拝した。現在関西大学一回生の佐々木さんは、茨木市の出身。子ども将棋大会などの折、当宮へもよく来社される森信雄七段の門下生で、女流一級の期待の新鋭。

佐々木さんは、廣田長己・日本将棋連盟京都府支部連合会会長、将棋愛好家で岡山大学病院眼科医の塩出雄亮氏の三人で来社、昇殿参拝後、神職の案内で境内の説明を受けた。

また、参拝に先立ち文道会館で権宮司と懇談。権宮司が当宮と将棋との縁について説明した後「羽生善治日本将棋連盟会長や藤井聡太七冠も参拝され、この場で懇談しました。頑張ってください」と激励した。

当宮は将棋のご縁深く、明治期まで別当職として当宮を管理していた曼殊院が駒造りに関与しており、今でも曼殊院には『将碁馬寫』という駒字の手習い書が残されている。これは御祭



神菅公が、書の三聖の一人として挙げられるほどの能筆家であったことが深く関係しているとき、慶長年間には将棋・囲碁の棋士がよく出入りをしてきたとの記録も残る。  
こうした御縁から毎年当宮を会場に子ども将棋大会が開催され、天神様にあやかるうと子どもたちが腕を磨く絶好の場となっている。

春の上京茶会開く  
明月舎と絵馬所で



豊臣秀吉公が、貧富の差を問わず広く世間に呼びかけ当宮境内で開催した歴史的大茶会北野大茶湯や、御祭神菅公も「茶聖」「茶祖」と崇敬されるなどお茶のご縁深い当宮にて、春の上京茶会が四月二十九日、明月舎と絵馬所で開か

れ、約二百五十人の市民が一服を楽しんだ。  
上京茶会は、上京区を代表する文化事業として上京区文化振興会（冷泉貴実子会長）と上京区役所が、五十年以上の長きにわたり市内の社寺を会場に実施している。春は表千家、秋は裏千家のご奉仕で行われており、この日、明月舎に本席が、絵馬所に副席が設けられた。コロナ禍によって二年間中止され、昨年は本席のみで行われており、本席・副席が揃って設けられるのは四年ぶり。  
本席の明月舎、副席の絵馬所とも表千家の担当者によって掛けられた軸の説明などが行われた後、参加者は茶文化が息づく当宮における優雅な一服を楽しんだ。

京都ブライトンホテル開業三十五周年記念「天神さんと上七軒をめぐる旅」



京都ブライトンホテルが開業三十五周年を記念して、六月二十七日、「天神さんと上七軒をめぐる旅」を実施、全国から駆けつけた三十人が当宮へ参拝、花街の文化を堪能した。

上京区に拠を構える同ホテルが、上京の文化や当宮・花街の歴史に触れてもらおうと開催。当宮へ正式参拝した後、史跡御土居を散策し、上七軒の街並みを見ながら歌舞練場へ。二階和室で芸舞妓のお点前による一服を楽しんだ。

この後、案内に当たった老舗和菓子店「老松」当主で立命館大学教授の太田達氏、当宮神職に芸妓の梅葉さんも加わり、当宮と上七軒の関係や祭事・催しなどについてのトークショーがあり、参加者は熱心に聴き入った。

上七軒と当宮の縁は深く、室町時代の社殿再建の残木で七軒の茶屋を建てたのがはじまり。以来当宮の門前町として栄え、芸能の神様として芸舞妓の信仰も篤い。

京都府神道青年会が絵馬所でチャリティーバザー開催

京都府神道青年会（北川真喜子会長）は御縁日の五月二十五日、絵馬所において恒例のチャリティーバザーを開催した。

会員から持ち込まれた清酒・食器・衣類・雑貨品などを並べ、「チャリティーバザーに協力を」と御縁日の参拝者呼び掛けた。神社に奉納された品であり、市価より格安とあつて朝から多くの参拝者が立ち寄り、賑わいを見せた。

この日のバザーの収益金は、例年通り全額を京都府へ寄付、交通安全推進事業に役立てられる。

同会は、府内の神社に奉務する満四十歳までの神職で組織され、多くの会員を擁する全国でも有数の青年会。



J A京都市が右近の馬場西の広場で農産物品評会開催



農産物の品質向上を目指すJ A京都市主催の夏季農産物品評会が七月七日、右近の馬場西の広場で開かれた。京都市内の農家からトマト・ナス・キュウリなど約五十種・八百点の野菜が出品され、摂南大学農学部農業生産学科学科長寺林敏教授をはじめとする審査員らが審査。知事賞・市長賞・北野天満宮賞などを決めた後、即売会が行われた。晴天の下、出品農家が丹精込めて栽培された自慢の野菜を求め、多くの参拝者や市民が詰めかけた。

第七回ものづくりtenmangu開催

第七回ものづくりtenmanguが四月二日、当宮右近の馬場西の広場で開催された。

この行事は京都市内を中心に手作り市を開催する企画団体ものづくりcrossroad（山中陽太代表）が主催し、当宮では平成三十一年より行い今年は第七回目となる。

今回はコロナ禍の落ち着きから、キッチンカーの出店も多く、革製品や木工芸のクラフト作品等約八十のブースに多くの参拝者が訪れ手作り市を楽しんだ。

前回より開催しているmusic tenmanguでは、「Pods」や「PECO」等のアコースティックライブも開かれ参拝者は次々と足を止め聴き入った。



氏子講社だより

北野天満宮氏子講社（宮階有二講社長）の常任理事会が七月五日、常任理事九人の出席のもと文道会館で開かれた。

開会に当たり宮司が「コロナが5類になり、ようやく平常に戻りつつある。昔のような賑やかな瑞饋祭になるよう願っています。千二百二十五年の半萬燈祭まで後三年半となり、先日駒札も掲出された。今後も皆様方のご協力を頂きながら推し進めていく所存です」と挨拶。宮階講社長も「コロナが落ち着いたまま十月を迎え、瑞饋祭が立派に粛々と執り行われることを願うばかりです」と挨拶した。

この後、議事に入り令和四年度決算報告、令和五年度予算案を拍手で採択。瑞饋祭の諸行事・祭礼の形態については「原則としてコロナ禍以前に戻す」ことを前提に、事務局から報告された主要行事日程、道具搬出から神輿飾りの担当神幸祭・還幸祭の次第や行列奉仕の担当などについてすべて了承された。主要議題の瑞饋祭は十月一日に神幸祭が行われ、二基の御鳳輦と一基の葱華輦を中心に氏子区域を渡御、三日間の祭礼の後、十月四日に本社へ還幸する。



【ボーイスカウトだより】

BS京都第85団 育成会総会と上進式

当宮に本部を置くボーイスカウト京都第八十五団育成会（会長橋重十九当宮宮司）の令和五年度総会が四月二十三日、文道会館で開かれ、令和四年度の決算、同五年度の予算案並びに活動計画案などを承認した。

この後、御本殿で上進式が行われ、ビーバー隊に一人の新入隊員があつたほか、ビーバー隊からカブ隊に四人、カブ隊からボーイ隊に三人計七人が上進し、御神前に誓いをたてた。これまでボーイ隊員は二人で、しかも一人が休隊状態で活動が出来ずに困っていたところで、五人に増えたことは大きな朗報となり、団関係者を喜ばせた。

上進式が終わると境内スカウトハウスにて三年ぶりに懇親会が開かれ、今後の活動について話し合ったり、スカウト同士も食事をともにしながら新入スカウトとも親睦を深めた。

◎令和五年度の主な活動計画は次の通り。

- ▽神社スカウト全国大会於、伊勢（八月五日〜七日）▽餅つき大会（十二月下旬）▽火縄奉仕（同三十一日）▽ヤチマタ募金活動（令和六年一月）▽全国女子駅伝沿道奉仕（一月十四日）▽全国車いす駅伝沿道奉仕（三月下旬）



天神さん

思い出写真館



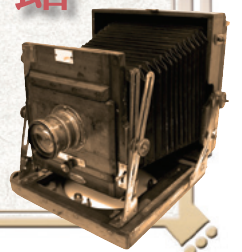
今号も昭和三年春齋行の千二十五年半萬燈祭のアルバムからの一枚である。

「献酒家積樽 伏見・灘」と写真説明が書かれ、楼門前、つまり現在の文道会館入り口付近におびただしい

数の奉納樽が参拝者を歓迎するかのようになり上げられている。記録を繰ると、伏見・京都・灘の三酒造組合から奉納されたもので、合わせて二百八十八樽が、組合ごとに三カ所に分けて積み上げられた。

今号に献酒祭の記事を載せているが、酒とご縁が深い当宮だけに当時も酒造関係者の崇敬が篤かったことが伺える。

ところで、参拝の人たちの姿をご覧頂きたい。手前の男性と学生服姿の男児を除き女性は全員和装である。天気あまり芳しくないのか傘を携えている人が多い。拡大してみると参道脇に「アイスクリン」の小さな幟が見えている。約百年前のアイスクリームの味はどんなものだったのだろう。ふと気になった。



献詠 濱崎加奈子選

四月「曙」

菅公は詩歌に優れ、多くの名歌を詠まれました。室町時代には「和歌の神」と仰がれ、さらに柿本人麻呂と山部赤人と並んで「和歌三神」と称えられています。

あらあらし比良のおろしの吹く夜や

京都市 塩小路光胤

あけて静けき春のあけほの

京都市 小山 博子

陽々と春は湧き出て満ち伸びて

京都市 服部満千子

躍進燃ゆる曙嬉し

兵庫県 村島 麗門

一つのまにかなたの空に咲きてし

京都市 若狭 静一

花色かかる雲のあけほの

京都市 波多野千寿子

転居してコロナ禍四年ふりかえり

京都市 白石 雅彦

曙に聴くサッチモの曲

京都市 田口 稔恵

病室の窓に曙光の煌めきて

京都市 若狭 静一

術後経過をラインで打たむ

京都市 若狭 静一

明日開く力をたたむ夕ぼたん

岐阜県 波多野千寿子

曙待つて竟に咲きたり

東京都 白石 雅彦

東国に旅立つ除目名残惜し

東京都 白石 雅彦

つひに来たりぬ卯月の曙

東京都 白石 雅彦

忘れ貝拾ふてふ聞く浦波に

京都市 田口 稔恵

人の影見ゆ明仄の空

京都市 田口 稔恵

【評】  
夜があけはじめて、ほのかに物が見える頃のこと。春夏秋冬に曙はみられるものの、枕草子「春は曙」のイメージが後世に影響を与えている。「名もしるし峰の嵐も雪とふる山桜戸の曙の空」定家

五月「淡路島」

淡路島の名産品で賑やかに

京都市 小山 博子

頼もしき民と安寧を想ふ

兵庫県 村島 麗門

淡路島琵琶湖に形似てるけど

岐阜県 波多野千寿子

どっちが広いさあどっちだろ

京都市 服部満千子

遠き日に旅の楽しみ渦潮を

京都市 若狭 静一

初めて見ては感動しきり

京都市 若狭 静一

伊弉諾と伊弉冉の為す国造り  
淡路の島より広くなりけり

東京都 白石 雅彦

淡路島松帆の浦に待つ人は

京都市 田口 稔恵

篝火ならましとく帰り来よ

京都市 田口 稔恵

【評】  
日本書紀の逸話もあるが「阿波」へ至る道の意で「あはぢ」とも。波や船との取り合わせや「あは」との掛詞がみられる。「淡路にてあはと雲井に見しつきの近き今宵はどこがらかも」躬恒

六月「青嵐」

京に見る奇跡は雪に晴れの空

京都市 小山 博子

青嵐につぐ端正の夏

京都市 服部満千子

狼の遠声きこゆかみの山

京都市 塩小路光胤

しつとも青き嵐ふさかふ

京都市 波多野千寿子

あおあらし春を惜しみてうくひすの

京都市 若狭 静一

声を追ひ遣り夏を呼ははむ

京都市 若狭 静一

向山の芽吹きし木の葉皆揃ひ

岐阜県 波多野千寿子

葉裏返して嵐のごとし

京都市 田口 稔恵

漕艇の若人声を高らかに

京都市 若狭 静一

湖面を征くよ青嵐背に

京都市 若狭 静一

父と子がキャッチボールする青嵐

兵庫県 村島 麗門

後姿も親子似てゐる

京都市 若狭 静一

東山南禅の苔青々と

東京都 白石 雅彦

紅葉輝く青嵐かな

東京都 白石 雅彦

青嵐樹の間通へばさやさやと

京都市 田口 稔恵

昔の人の声やせやまし

京都市 田口 稔恵

【評】  
嵐は秋や冬に詠まれることが多いが、青嵐は新緑の頃に吹くやや強い風のことをいう。北野天満宮の御土居の青紅葉も美しい。風に散る葉が舞い、青い嵐のような風景が想像されよう。

● 献詠奉納についての問い合わせは、北野天満宮献詠係までご連絡ください。

正式参拝された皆様（敬称略）（四月〜六月）

- 四月 十二日（水）京都ライオンズクラブ
- 四月 十四日（金）東京銀座ロータリークラブ
- 四月 十七日（月）講道館館長上村春樹氏以下四名
- 四月 十九日（水）柏西ロータリークラブ
- 四月 二十日（木）京都産業大学下出祐太郎ゼミ
- 四月 二十三日（日）交通安全フェスタ  
（スパーカー・ヘリテージギャザリング2023）

- 五月 四日（木）京都三大学合同交響楽団
- 五月 十四日（日）茨城県議会議員森田悦男と共に  
北野天満宮と伊勢神宮の旅
- 五月 二十八日（日）木津宗詮社中ト翠会
- 五月 二十九日（月）大阪府神社庁第二支部  
・大阪府神社総代会第二支部
- 六月 十一日（日）天神社奉賛会

- 六月 十七日（水）京都外国語大学副学長藤本茂氏ほか  
女流棋士佐々木海法氏・日本将棋連盟京  
都府支部連合会会長廣田長己氏・岡山大  
学病院眼科医塩出雄亮氏
- 六月 十八日（日）立命館大学学生二十八名
- 六月 二十七日（火）京都ブライトンホテル  
「天神さんと上七軒」をめぐる旅
- 六月 二十八日（水）全国八幡宮連合

挙式された皆様（四月〜六月）

- 五月 四日（木）土屋宏之・あかね ご夫婦
- 五月 二十一日（日）若園祐作・由美子 ご夫婦
- 五月 二十七日（土）諸頭孝彦・花那子 ご夫婦
- 五月 二十七日（土）川端利幸・恵理子 ご夫婦

新郎新婦様、御両家の皆様の新郎新婦様、御両家の皆様のご多幸をご祈念申し上げます。

## 片桐且元奉納の懸鏡

慶長十二年（一六〇七）、豊臣秀頼は、北野天満宮の大造営を行った。現在の社殿はこの時のものである。この造営の奉行を勤めたのが、この懸鏡の奉納者の片桐且元である。且元が、奉納した懸鏡は現在三十二面が伝わっている。鏡の背面には、

豊臣秀頼公御再興

奉御奉行

北野天満天神

片桐東市正

慶長十二年十一月吉日

天下一鏡屋

木瀬浄阿弥作

とある。

奉納者の片桐且元（一五五六〜一六一五）は、はじめ近江の浅井氏の家臣であったが、後豊臣秀吉に仕えた。賤ヶ岳の戦いで七本槍の一人としても知られた人物である。秀吉の死後、豊臣秀頼の年寄として大坂城に詰め、政務万端に関わり権勢を振るった。

大坂の陣のきつかけとなった方広寺鐘銘問題では徳川方との折衝に当たったが、豊臣方の信任を失い、大坂城を出、居城の摂津茨木城に入り、大坂の陣では徳川方についた。

作者の木瀬浄阿弥は、鏡に「天下一鏡屋」とあるように、桃山から江戸前期にかけて京都で活躍した有力鏡師である。また当宮所蔵の「伝加藤清正奉納日本輿地図鏡」の作者でもある。

これら三十二面の鏡は青銅製で、背面に記

## 天満宮 歴史の一齣

京都大学名誉教授

藤井 讓治

された銘文は三十二面とも同一であるが、その大きさは三種ある。

大は径一〇寸一尺、背面の外周近くに鈕（つまみ）六個を持ち、また周縁をもつ。

中は径九寸、背面上方に鈕二個を持ち、大と同様周縁持つ。

小は径八寸で、外周に六個の鈕を持つが、周縁はない。

三十二面の内訳は、大は一面、中が二十二面、小が九面、である。

この内二十九面が本殿大床の長押と柱に懸かる。残り大一面と小一面は宝物殿に収蔵されている。

「寛文五年（一六六五）当社道具日記」には「御正躰大三面大三面 中小十面程かと鏡拾八面 但御翠簾二掛ル」とみえ、また「寛文八年北野社正遷宮入用覚」中の「北野社内陣之御道具之覚」には「御正躰大十三面 小二十四面と鏡 拾八面 但御翠簾二掛ル」とみえる。

菅原道真公八百年忌にあたる元禄十四年（一七〇一）の「神宝及び佛像仏器等渡片鏡帳」には「御正躰 五面」「御鏡 五十五枚」とみえ、寛文五年、八年と元禄十四年とでは、鏡の扱いに差異がみられるが、いずれにしても片桐且元奉納の懸鏡はこの中に含まれると考えられる。



# 天神信仰の主な歴史 (注) 歴史事項 北野天満宮事項 伝説事項 菅公薨去後、およそ百年かけて醸成され千年受け継がれる天神信仰

承和十二年	八四五	菅原道真公(菅公)御誕生(父是善母伴氏)	父是善との親子の契り
齊衡二年	八五五	初めて詩「月夜に梅花を見る」を作る	(菅公十一歳)
貞観元年	八五九	菅公元服 文章生を目指し勉学	菅公石清水八幡宮参拝
貞観四年	八六二	文章生の試験に合格	(菅公十八歳)
貞観八年	八六六	比叡山延暦寺円仁の『頭揚大戒論』の序文を書く	(菅公二十三歳)
貞観九年	八六七	文章得業生となる	(菅公二十六歳)
貞観十二年	八七〇	方略試(当時最高の国家試験)に合格	(菅公四十二歳)
仁和二年	八八六	この間少内記(詔勅の起草係) 式部少輔など任ぜらるる(菅家廊下を継承)	(菅公四十四歳)
仁和四年	八八八	讃岐守に任ぜられる	(菅公四十四歳)
寛平四年	八九二	これにより宇多天皇に挙用され政治の刷新を図ると共に平安京文化の礎を築く	(菅公五十五歳)
寛平五年	八九三	従四位下『三代実録』『類聚国史』の編纂に着手	
寛平六年	八九四	参議・式部大輔・左大弁を経て勘解由使長官	(菅公五十歳)
寛平七年	八九五	遣唐大使に任ぜらるる	
寛平九年	八九七	渤海客使を接待し詩を交換 中納言従三位	
昌泰二年	八九九	正三位に叙し中宮大夫を兼ねる	
昌泰三年	九〇〇	菅公右大臣に任ず 位人臣を極める	(菅公五十五歳)
延喜元年	九〇一	『菅家文章』『菅相公集』『菅家集』を献上す(三善清行、菅公に辞職を勧告)	
延喜三年	九〇三	一月二十五日大宰権帥に左遷される 大宰府南館で謫居の日々(菅公五十七歳)	
延喜五年	九〇五	詩集『菅家後集』を京の紀長谷雄に送る 天拝山で「天満大自在天神」となる	
延喜六年	九〇六	二月二十五日 配所において薨す	(菅公五十九歳)
延喜七年	九〇七	味酒安行 大宰府の御墓所に祠堂を建てる(現在の太宰府天満宮)	
延喜八年	九〇八	菅公を元の右大臣・正二位に叙し 左遷の宣命を破棄す	
延喜九年	九〇九	多治比文字 比良宮神官の子太郎丸らに神託(朝日寺の僧最鎮)	
天曆元年	九四七	村上天皇により平安京の天門北野に鎮座す	
天曆二年	九四八	村上天皇御鳳輦御寄進	
天曆三年	九四九	村上天皇勅命により難波宮の地に菅公神霊を祀る(現在の大阪天満宮)	
天曆四年	九五〇	右大臣藤原師輔 北野の神殿を増築し神宝を献ず	
天曆五年	九五〇	慶滋保胤「文道之祖詩境之主」の願文を草す	
天曆六年	九五〇	一条天皇より北野社官幣に預り「北野天満大自在天神」の神号を賜る	
天曆七年	九五〇	北野社は官幣社となり勅祭北野祭が斎行される(江戸末期迄)	
天曆八年	九五〇	一条天皇御鳳輦御寄進	
天曆九年	九五〇	左大臣・正一位 次いで太政大臣を追贈される	
正暦四年	九九三	一条天皇初めて陛下を祀る北野社に行幸 以後歴代天皇の行幸に与る	
寛弘元年	一〇〇四	北野社が国家の大事を祈る二十二社に臣下で異例の加列	
永保元年	一〇八一	大宰権帥大江匡房により大宰府・安楽寺にて神幸式大祭が斎行される	
康和三年	一一〇一	『北野天神縁起』建久本成る	
建久五年	一一〇四	『北野天神縁起』承久本成る	
承久元年	一一一九	『北野天神縁起』承久本成る	

承和八年	一四〇一	北野経王堂成る
応仁元年	一四六七	室町幕府の崇敬で「北野祭」隆盛を極めるも応仁の乱より途絶える
天正十五年	一五八七	「北野大茶湯」を豊大閣・千利休居士ら催す
慶長八年	一六〇三	出雲阿国が北野境内で初めてややこ踊り(歌舞伎踊り)を公演(歌舞伎発祥)
慶長十二年	一六〇七	豊臣秀頼公 北野神社殿を造営する(慶長の大道宮)
江戸年間	後期	後西天皇御宸筆勅願「天満宮」御寄進(三光門掲額)
元治元年	一八六四	北野をはじめ太宰府・大阪・湯島など主要な天満宮に「和魂漢才碑」建立
慶応四年	一八六八	勅命により北野祭臨時祭再興
明治四年	一八七一	神仏判然令(神仏分離)により 天台宗比叡山延暦寺のもと社務を統括していた曼殊院との凡そ千年間に亘る神仏習合が終わる
明治三十五年	一九〇二	北野天満宮 臣下で異例の官幣中社となる
昭和二十七年	一九五二	太宰府天満宮 国幣小社となる(のち官幣中社)
平成十四年	二〇〇二	菅公千年大萬燈祭を斎行する
令和二年	二〇二〇	菅公千百年大萬燈祭を斎行する
令和九年	二〇二七	例祭(かつての北野祭) 斎行に伴い 比叡山延暦寺と共に北野御霊会を再興 菅公千二百二十五年半萬燈祭を斎行予定

## 今昔マップ

◆北野社創建(平安時代) 至現在  
◆現在の京都

■平安京全域  
■平安宮 大内裏

注① 国都平安京大内裏で千百年間天皇の祭政が執行され、日本文化が育まれてきた。  
注② 平安京・大極殿の天門に北野、鬼門に比叡山、宇多天皇創建の仁和寺などが精神的中心となって熟成の礎となった。  
注③ 八幡さま、稲荷さまを始め多くの神仏は国都平安京(元の国都平城京)の近畿より全国に伝播。



# 紅梅殿結婚式

## 日本文化の発信地、 紅梅殿からはじまる家族の日

貞観元年（八五九年）菅公が十五歳の元服の折、母君は菅公の前途を祝し、

『久方の月の桂も折るばかり家の風をも吹かせてしがな』の和歌を詠み励まされました。

我が国で最初に家風を表されたのが、菅公の母君であったと伝えられています。立派な家風をもった稔り多い新たな家庭を築かれますようにとの願いをこめて、菅公邸宅ゆかりの紅梅殿での神前結婚式から新しい「家族」がはじまります。



## 天神様の秋まつり

ずいきまつり

# 瑞饋祭

●由緒

京都の代表的な秋祭りとして知られる瑞饋祭は、村上天皇の御代にはじまったとされる「北野祭」が起源と伝えられています。

年に一度、御鎮座の往時に思いを致し御神霊を御旅所より「お迎え」すること、氏神としての天神様を改めて意識し感謝する心が育まれます。



十月	
一日	神幸祭 午後一時 行列出発 御旅所到着
二日	午後四時 献茶祭 (表千家宗匠奉仕)
三日	午後三時 甲御供奉饗 (七保会奉仕)
四日	午後一時 行列出発 本社到着
五日	午後四時半 后宴祭 (八乙女舞奉納)

# 七五三

詣は、知恵の神様

# 北野天満宮へ

七五三詣は、子供の成長に感謝し無事を祈り、神社にお参りする大切な人生儀礼です。子供は国の宝であり、親にとってもかけがえのない宝です。

北野天満宮で七五三詣をし、子供の成長と無事を祈るとともに、さらに天神様の御加護で知恵を授かりましょう。ご家族お揃いでのご参拝をお待ちいたしております。

授与品・記念品  
知恵守 千歳飴 祝い笹 学用品セット  
案内状持参の特典  
特別授与品の「勾玉」を進呈

★七五三詣の方は、史跡御土居もみじ苑入苑優待あり

## 御縁日 境内ライトアップ

毎月25日は天神さんの御縁日。境内特別ライトアップ!

## 定期購読のお知らせ

- 定期購読 1,000円（1年分）季刊・年4回発行
- 学校・教育機関でお申込みの場合は無料発送。
- お申込み・お問い合わせは、社務所まで。



右記QRコードを携帯電話やスマートフォンで読み込むと北野天満宮の最新情報にアクセスできます。上記の各SNSでもご案内しております。

## ●アクセス

名神高速道路南インター又は東インターより約30分  
第二京阪道路鴨川東インターより約20分  
JR京都駅より市バス50系統  
JR・地下鉄二条駅より市バス55系統  
JR円町駅より203系統  
地下鉄今出川駅より市バス51・203系統  
京阪出町柳駅より市バス203系統

## ●参拝時間

■7時～17時  
但し、毎月25日（御縁日）は6時30分から20時  
※青もみじ苑・もみじ苑・梅苑「花の庭」のライトアップ期間や正月等は夜間も開門しています。  
最新情報はホームページ等のお知らせ記事をご覧ください。

■文道会館・授与所 受付時間 9時～16時30分

京阪三条駅より市バス10系統  
阪急大宮駅より市バス55系統  
阪急西院駅より市バス203系統  
京福電車白梅町駅より徒歩5分  
いずれも北野天満宮前下車すぐ

## ●御祈禱

■受付時間 9時～16時  
■受付場所 御本殿東側授与所

## ●駐車場

毎月25日は、御縁日のため駐車できませんので公共交通機関でお越しください。